産業ガスレポート

Vol.25 2011年秋号

Japan Industrial and Medical Gases Association

一般社団法人
日本産業・医療ガス協会

産業ガスレポート vol.25 2011年 秋号

CONTENTS

平成23年度　定時総会　会長挨拶 …… 1
協会新役員 …… 4
産業ガス部門　評議員・顧問 …… 5
産業ガス部門　組織表 …… 6
常置部会・委員会名簿 …… 7
産業ガス部門　事務局の新体制 …… 10
平成23年度定時総会
　JIMGA医療・産業ガス合同シンポジウム …… 11
　定時総会 …… 12
　懇親会 …… 13
　平成22年度　事業報告 …… 17
　平成22年度総会、部会、WG会議等開催記録 …… 21
　平成23年度　事業計画 …… 28
　会員の現状、今後の主要日程 …… 32
エッセイ　1年だけの熱い夢（中井　喜三） …… 33
技術・国際ニュース …… 35
地域本部からのお知らせ
　北海道地域本部 …… 41
　東北地域本部 …… 43
　関東地域本部 …… 44
　東海地域本部 …… 46
　北陸地域本部 …… 48
　近畿地域本部 …… 50
　中国地域本部 …… 53
　四国地域本部 …… 55
　九州地域本部 …… 57
統計データ …… 59
編集後記 …… 72

平成23年度 定時総会

会長挨拶

会長　豊田 昌洋

本日は皆様ご多忙の中、当総会にご出席頂きまして誠にありがとうございます。

平素は会員の皆様方には大変お世話になっており、心から御礼申し上げます。私は一年前、会長に選任され、JIMGAの産業ガス部門、医療ガス部門それぞれの課題にひとつひとつ取組んでまいりました。就任直後、直ちに全国の９地域本部を回り、地域本部の方々といろいろな問題につきまして意見交換をし、本部への課題等をお預かりして、ひとつひとつ解決して行くことが「私の使命」と感じていました。

今年の正月の賀詞交歓会でもそのようなことを申し上げました。なにしろJIMGAの課題は産業も医療も非常に幅が広く、奥行きの深いそして専門的な技術を要す課題ばかりでございます。国内でも海外でも、専門的な課題が多く、そのためにも会員の皆様方のお力添え、とりわけ各理事会社の皆様方には貴重な人材を派遣頂きまして、現在30に余るワーキンググループ、それぞれで中身のある充実した議論を重ねて頂き、社会から評価を頂くべく努力しております。そのためにも業界はいついかなる時でも尚一層一致団結する必要があると思っております。しかしながら業界それぞれの人が一緒に集まるということは往々にして不信を招きかねません。昨年、前田口会長以来、組織を見直し、そして会議のルールも改め、場合によっては弁護士の先生にもご同席頂き、いわゆる透明性のある会議運営により、会議を開催しております。今年も透明性のある会議の運営を、更に強化し、会員の皆様方のご協力を頂き、社会に貢献して行きたいと思っています。

今年の新年のご挨拶の時には、不安要因はあるものの回復状況にある日本経済の中で決して油断することなく、脚下照顧の気持ちをもって皆で一緒に足元を固めて前進したいと申し上げました。しかしながら、３月11日に東日本大震災という、未曽有の大震災に遭いました。わが業界も甚大な痛手を被りました。その中で、JIMGAの永年にわたるお互いの団結力をもって、現地の復旧あるいは関係官庁のご要望にお応えすることが出来ました。自らも被災者であるにも関わらず、これらの対応に尽力して頂いた、特に関東並びに東北地域

本部の皆様方に、JIMGAを代表いたしまして心から厚く御礼申し上げる次第でございます。また今尚、原発という問題の中で故郷に帰れない等、非常に痛ましい事故の犠牲になっておられる方々に心からお見舞い申し上げますとともに、大震災で亡くなられました方々に心からお悔やみを申し上げます。

東北・関東地域本部の被災された会員の方々は、生産設備あるいは倉庫、営業所、運送車両等に多くの被害を受けました。その中で被災された会員の皆様にお力添えさせて頂こうと、５月27日の理事会にて会費の減免措置を決め、ご通知申し上げました。会社再生のために一層ご尽力頂きますこと心からお願いいたします。

震災にあたりまして、JIMGAが永年、本部と地域本部とが連携を良くし、関係官庁とも非常に細やかに連絡した結果、いろいろな意味で今回は迅速に対応ができました。当協会の働きかけにより医療用酸素のボンベが使えない場合は産業用のボンベでもいいということが一定条件ではございますが関係官庁から承認を頂き使用出来るようになったこと、緊急車両通行証を直ちに出して頂き物を運ぶことができたこと、あるいはスタンドで優先的にガソリン等の給油が受けられたことなどがございます。命に関わる医療用ガス、産業用ガスを切らすことなく、特に政府から要請を受けた医療用酸素は、迅速に全国から集めることができ、関係官庁からは御礼の言葉を頂いております。これらはJIMGA会員全員の誇りにすべきことだと思います。

そして尚一層いろいろな面を反省しながら、更に一歩進めて災害への対策をきちんと立てて行く、これが現在のJIMGAの仕事であろうと思っています。発生以来３ヶ月間これらの問題に全力を挙げて参りました。

しかしながら震災を理由にJIMGAの今までの歩みを止めてはなりません。産業ガス部門の三つの課題“安全の課題”、“保安の課題、“環境の課題”があります。初めに電力問題については、東北と関東だけと言っておりましたがついに関西、九州まで、おそらくは日本全国に波及してきます。そうなった場合には、電気料金がこのままの水準で収まることはまずあり得ない。節電をしながらも電気料金は上がって行く、工場稼働にはいろいろな知恵を絞りながらもコストの上昇は避けられない状況であろうと思っております。そのためにも環境税、再生エネルギーの全量買取、そして排出量取引、この環境三法につきましては、他の団体とも協力して電力多消費産業である我々の業界への格別の計らいを頂ける様働きかけて行くつもりです。これが今緊急の課題であろうと思っております。

更には基準としてJISだけではなく国際整合化を考える状況となっております。そういう意味で、国際部会長並びに技術保安部会長皆様方のご努力により、ただいまJIMGAはIOMAにおきましてこういう基準の策定について一定の地位を獲得することができております。

今年の５月にはセレン化水素について日本発の基準を検討するということになっております。今までにも４件の日本発の基準が出てきており、これをますます広げて行きたいと思っています。

医療ガス部門におきましても保安安全は重要な課題となっています。

我々自身は医療ガス、あるいは医療機器についても充分な知識を持っておりますが、扱う方々に

更に一層の安全・医療の知識を持って適切な行動をとって頂くようにする、これもまたJIMGAの仕事です。そういう意味で医療ガス部門はただ今草の根講習会を行っています。今年は全国の19支部において開催する予定で、更に大きく育てて行きたいと思っています。また4年前から制度化したMGRにつきましても、今年7月に導入講習が行われ220名の方が受講される予定です。今年の12月時点では約3,000名の方がMGRの資格を得られることになり、これも大きな力となってきています。更新時講習は昨年3ヶ所で行いました。今年は全国の地域本部の皆様方のご要望により8ヶ所で開催しようと思っております。最近MGRについては諸官庁から評価を頂くようになってきており、更にMGRのゆるぎのない地位の確保に邁進いたしたいと思っています。

更に医薬品のGMPに関して国際基準との整合性の問題が出てまいりました。昨年、政府はPIC/Sという35ヶ国加入のヨーロッパの団体へ申請加入するという意向を示しました。現在、それに備え医療ガスを含めた9のグループを作りGMPのギャップ、国際的な国内的なギャップの分析を行いました。

いずれにいたしましてもJIMGAは産業でも医療でもいろいろな国内外の問題を抱えております。このために更なる努力をし、そして今回の災害において、命を守ることにおける医療ガス及び産業基盤における産業ガスの重要性が認識されてきましたので、更に一定の地位を確保できるようJIMGAとしては頑張って参りたいと思います。どうぞ皆様方におかれましてはJIMGAのますますの発展に尚一層ご尽力頂きますことを心からお願いいたします。

協会新役員

平成23年７月１日現在

理事（敬称略・順不同）

代表理事（会　長）	豊田　昌洋
理　　事（副会長）	松枝　寛祐
理　　事（副会長）	岩澤　利雄
理　　事（副会長）	鈴木　慶彦
理　　事（副会長）	南部　　淳
理　　事（副会長）	古野　照夫
理　　事（副会長）	岩切　充弘
理　　事（副会長）	牧野　明次
理　　事（副会長）	小池　哲夫
理　　事（副会長）	髙松　久雄
理　　事（副会長）	鏑木　　正
理　　事（副会長）	中井　喜三
理　　事（副会長）	林谷　英司
理　　事（副会長）	竹内　弘幸
理　　事（副会長）	栗林　秀和
専務理事	豊澤　幸平
常務理事	篠塚　賢藏

監事（敬称略・順不同）

代表監事	岩崎　廣和
監　　事	小池　和夫
監　　事	繁田賢太郎
監　　事	藤井　恒嗣

産業ガス部門　評議員・顧問

平成23年７月１日現在

評議員（敬称略・順不同）

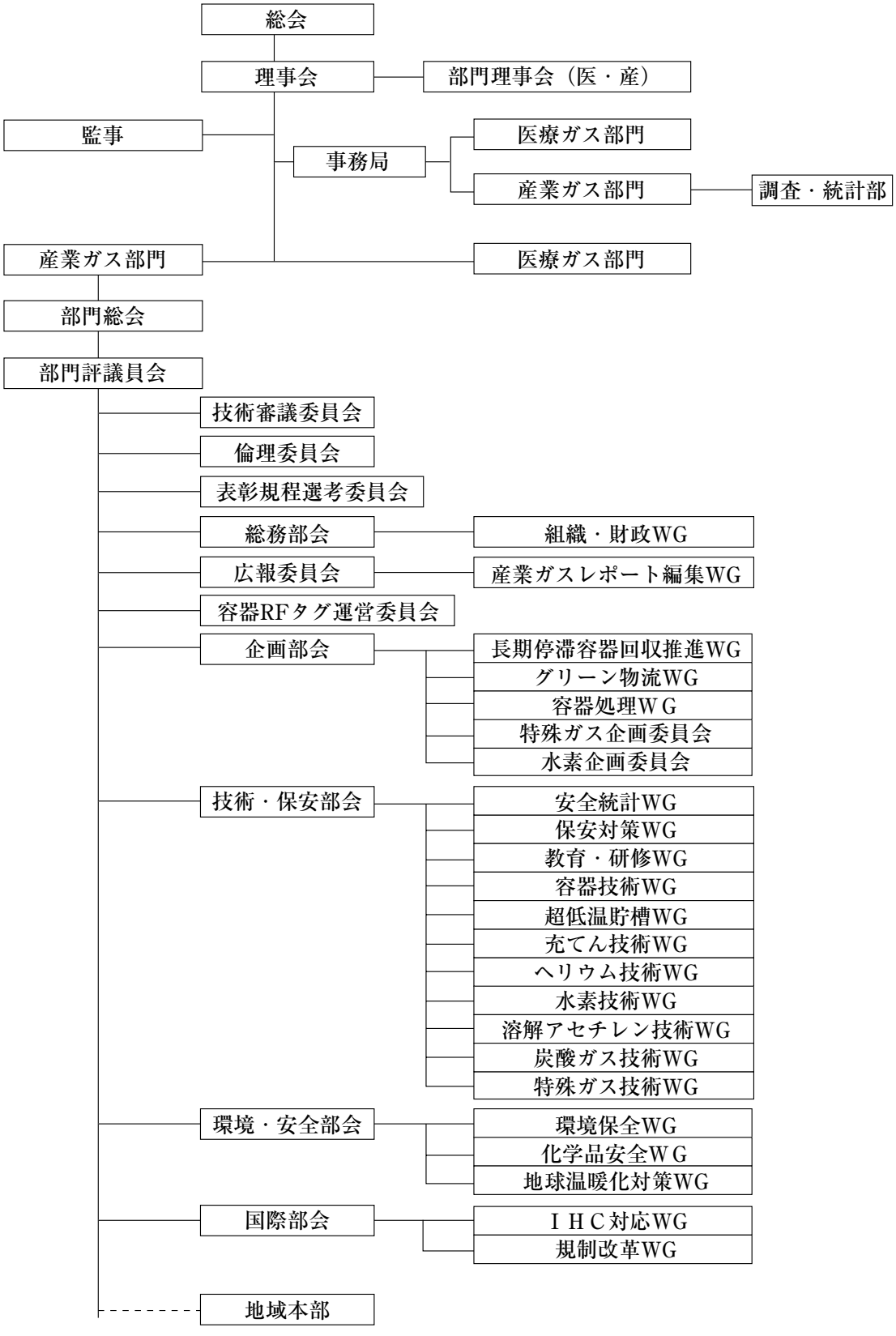
豊田　昌洋	エア・ウォーター㈱	代表取締役副会長
松枝　寛祐	大陽日酸㈱	代表取締役会長
林谷　英司	日本エア・リキード㈱	取締役 専務執行役
牧野　明次	岩谷産業㈱	代表取締役社長
小池　哲夫	小池酸素工業㈱	代表取締役社長
竹内　弘幸	高圧ガス工業㈱	代表取締役社長
髙松　久雄	昭和炭酸㈱	代表取締役社長
鏑木　　正	東京ガスケミカル㈱	代表取締役社長
中井　喜三	㈱リキッドガス	代表取締役社長
岩崎　廣和	昭和電工㈱	取締役 化学品事業部門長
藤井　恒嗣	東邦アセチレン㈱	代表取締役社長
平松　博久	エア・ウォーター㈱	専務取締役 産業カンパニー長
天田　　茂	大陽日酸㈱	常務取締役 電子機材事業本部副本部長
岩本　　満	エア･ウォーター炭酸㈱	代表取締役社長
吉坂　和正	昭和電工㈱	化学品事業部門化学品事業部 管理グループマネージャー
石関　貞男	ジャパンファインプロダクツ㈱	常務取締役
財満　正憲	大陽日酸㈱	常務執行役員 ガス事業本部副本部長
上羽　尚登	岩谷産業㈱	専務取締役 産業ガス･溶材本部長
八木　三男	新潟水素㈱	代表取締役社長
柴田　芳久	サーンテック㈱	代表取締役社長
橋本　　章	イビデンケミカル㈱	代表取締役社長
藤原　慶夫	エア・ウォーター㈱	専務取締役 北海道代表 北海道カンパニー長
山口美紀生	大陽日酸㈱	執行役員 東北支社長
久保田正夫	東邦アセチレン㈱	代表取締役 専務執行役員
平峯信一郎	大陽日酸㈱	常務執行役員 関東支社長
柳川　隆則	㈱宝山産業	代表取締役社長
米田　勝明	エア・ウォーター㈱	中部支社長
飯田　哲郎	名古屋酸素㈱	代表取締役社長
小倉　善興	宇野酸素㈱	代表取締役会長
吉満　誠二	㈱関西ガスファースト	代表取締役社長
松原　幸男	エア・ウォーター㈱	取締役 近畿支社長
阿南　泰洲	日本エア・リキード㈱	ジャパン・エア・ガシズ社　常務執行役員
藤井　基博	藤井商事㈱	代表取締役会長
野村　　茂	土佐酸素㈱	代表取締役社長
大橋　正明	四国アセチレン工業㈱	代表取締役社長
上原　正弘	大陽日酸㈱	理事 九州支社長
山岡　真木	エア・ウォーター㈱	九州支社長
豊澤　幸平	日本産業・医療ガス協会	専務理事

顧問（敬称略・順不同）

青木　　弘	エア・ウォーター㈱	代表取締役会長
於勢好之助	大陽日酸㈱	取締役相談役
田口　　博	大陽日酸㈱	取締役相談役

産業ガス部門　組織表

平成 23 年 7 月 1 日現在



常置部会・委員会

平成 23 年 9 月 1 日現在

総務部会

部会長	松枝　寛祐	大陽日酸㈱代表取締役会長
副部会長	波多野和彦	エア・ウォーター㈱経営企画部担当部長
副部会長	市原裕史郎	大陽日酸㈱常務取締役総務本部長
委　員	石田　保夫	高圧ガス工業㈱常務取締役ガス事業本部営業管理部長兼資材部長
委　員	牧瀬　雅美	岩谷産業㈱常務取締役産業ガス・溶材本部副本部長
委　員	山本　幸夫	㈱リキッドガス常務取締役総務本部長
委　員	小西　国温	東邦アセチレン㈱常務取締役常務執行役員管理本部長
委　員	西間木邦夫	昭和電工㈱化学品事業部門化学品事業部管理グループ企画・業務チームマネージャー
委　員	樋口　俊久	小池酸素工業㈱内部監査室長
委　員	安井　誠一	東京ガスケミカル㈱専務取締役
委　員	松尾　恒雄	日本エア・リキード㈱ジャパン・エア・ガシズ社上席常務執行役員営業統括本部販売ネットワーク本部管掌
委　員	宮本　　高	昭和炭酸㈱管理本部 総務部長

広報委員会

委員長	中井　喜三	㈱リキッドガス取締役社長
副委員長	山本　幸夫	㈱リキッドガス常務取締役総務本部長
副委員長・産業ガスレポート編集WG長	石川　紀一	大陽日酸㈱執行役員総務本部経営企画部長兼広報部長
副委員長	岸　　貞行	エア・ウォーター㈱専務執行役員広報・IR室長
委　員	豊山　　俊	日本エア・リキード㈱ジャパン・エア・ガシズ社広報部長
委　員	牧瀬　雅美	岩谷産業㈱常務取締役産業ガス・溶材本部副本部長
委　員	柴田　雅仁	㈱トリケミカル研究所営業本部営業一部長
委　員	安部　光一	東京ガスケミカル㈱取締役企画部長
委　員	長岡　史明	高圧ガス工業㈱執行役員管理本部副本部長兼総務部長
委　員	厚沢不二夫	小池酸素工業㈱ガス部営業課長
委　員	小島　　厚	日本液炭㈱管理本部総務・人事部長
委　員	中島　安博	昭和電工㈱化学品事業部門化学品事業企画室マネージャー

企画部会

部会長	小池　哲夫	小池酸素工業㈱代表取締役社長
副部会長	荒木　洋幸	日本エア・リキード㈱ジャパン・エア・ガシズ社専務執行役員営業統括本部長兼 機器事業本部長
副部会長	上羽　尚登	岩谷産業㈱専務取締役産業ガス・溶材本部長
委員・容器処理WG長	久保　直樹	小池酸素工業㈱取締役ガス部長
委員・特殊ガス企画委員長	天田　　茂	大陽日酸㈱常務取締役電子機材事業本部副本部長
委員・水素企画委員長	財満　正憲	大陽日酸㈱常務執行役員ガス事業本部副本部長
委　員	盛野　康雄	昭和炭酸㈱業務部長
委　員	神野　耕一	高圧ガス工業㈱常務執行役員
委　員	平松　博久	エア・ウォーター㈱専務取締役産業カンパニー長
委　員	賢持　善英	大陽日酸㈱執行役員業務本部副本部長
委　員	吉坂　和正	昭和電工㈱化学品事業部管理グループ企画・業務チームマネージャー
委　員	田中　徹也	㈱リキッドガス常務取締役企画本部長
委　員	高野　義文	東京ガスケミカル㈱理事産業ガス事業企画部長
委　員	矢部　忠夫	東邦アセチレン㈱執行役員経営統括室長兼営業企画部長
長期停滞容器回収推進WG長	柳田　裕久	大陽日酸㈱理事ガス事業本部パッケージガス事業部長
グリーン物流WG長	網倉　吉彦	日本エア・リキード㈱ジャパン・エア・ガシズ社工業事業本部バルク事業部配送計画部部長

容器RFタグ運営委員会

委員長	上羽　尚登	岩谷産業㈱専務取締役産業ガス・溶材本部長
副委員	黒木　幹也	高圧ガス工業㈱取締役ガス事業本部長
委員・WG長	横谷　和貴	岩谷産業㈱産業ガス・溶材本部特殊ガス部担当部長
委　員	柳田　裕久	大陽日酸㈱理事ガス事業本部パッケージガス事業部長
委　員	戸松　雅典	エア・リキード工業ガス㈱オペレーション本部工業ガス物流部部長
委　員	網中　聡一	エア・リキード工業ガス㈱安全・技術監査部
委　員	厚沢不二夫	小池酸素工業㈱ガス部営業課長
委　員	永野　訓司	高圧ガス工業㈱理事情報システム事業本部システム営業部
委　員	白井　清司	エア・ウォーター㈱執行役員
委　員	塚本　　健	エア・ウォーター㈱産業カンパニー水素・特殊ガス部
委　員	松田　保秀	日本液炭㈱管理本部情報システム部長
委　員	川井　幸輔	岩谷産業㈱産業ガス・溶材本部企画業務部課長代理
委　員	藤川　宝夫	㈱同栄代表取締役社長
委　員	平尾浩二郎	大陽日酸㈱メディカル事業本部バイオ・メディカル事業部技術部品質保証課長
委　員	及川　　哲	エア・ウォーター㈱システム部長
委　員	沼田　博美	大陽日酸㈱業務本部業務統括部システム開発部長
委　員	保坂　昭一	大陽日酸㈱技術本部品質保証統括部長
委　員	森脇　保志	大陽日酸㈱電子機材事業本部半導体ガス事業部 特殊ガス技術部設備技術課長
委　員	伊藤知佳子	全国高圧ガス容器検査所連合会理事
委　員	尾田　朝良	日本液炭㈱営業本部炭酸ガス営業部営業課長

技術審議委員会

委員長・技術・保安部会長	林谷　英司	日本エア・リキード㈱取締役
委員・国際部会長	牧野　明次	岩谷産業㈱代表取締役社長
委員・技術・保安副部会長	西田　享平	岩谷産業㈱専務取締役
委員・環境・安全部会長	鏑木　　正	東京ガスケミカル㈱代表取締役社長
技術・保安副部会長	勝又　　宏	大陽日酸㈱常務執行役員技術本部長
委員・国際副部会長	髙橋　俊一	エア・ウォーター㈱常務執行役員エレクトロニクスカンパニー長
委員・国際副部会長	松島　　裕	日本エア・リキード㈱ジャパンエア・ガシズ社常務執行役員技術本部長

国際部会

部会長	牧野　明次	岩谷産業㈱代表取締役社長
副部会長	髙橋　俊一	エア・ウォーター㈱常務執行役員エレクトロニクスカンパニー長
副部会長	松島　　裕	日本エア・リキード㈱ジャパンエア・ガシズ社常務執行役員技術本部長
委員・規制改革WG長	田中　雅郎	日本エア・リキード㈱ジャパン・エア・ガシズ社ラージインダストリー事業本部統括部長
委員・国際対応WG長	仲山　一郎	大陽日酸㈱技術本部技術標準化推進部長

技術・保安部会

部会長	林谷　英司	日本エア・リキード㈱取締役
副部会長	西田　享平	岩谷産業㈱専務取締役
副部会長	勝又　　宏	大陽日酸㈱常務執行役員技術本部長
委員・容器技術WG長	乾　　隆	大陽日酸㈱技術本部副本部長
委員・超低温貯槽WG長	濱口　和夫	エーテック㈱クライオ技術部長
委員・充填技術WG長	柴田　展良	エア・ウォーター㈱北海道カンパニー技術グループリーダー
委員・保安対策WG長	美澤　秀敏	岩谷産業㈱上級理事施設工務部長兼環境保安部担当部長
委員・教育・研修WG長	塚本　　元	㈱リキッドガス企画本部企画部長
委員・安全統計WG長	小峰　史郎	エア・ウォーター㈱コンプライアンスセンター環境推進部長兼保安推進部長
委員・ヘリウム技術WG長	浦谷　明宏	エア・ウォーター㈱産業カンパニー水素・特殊ガス部長
委員・特殊ガス技術WG長	三澤　一朗	住友精化㈱ファインガスシステム研究所担当部長
委員・水素技術WG長	白根　義和	大陽日酸㈱開発・エンジニアリング本部 ガスエンジニアリング統括部副統括部長
委員・炭酸ガス技術WG長	西山　雪男	昭和炭酸㈱取締役常務執行役員技術・生産本部長
委員・溶解アセチレンWG長	野村　眞澄	高圧ガス工業㈱代表取締役会長

環境・安全部会

部会長	鏑木　　正	東京ガスケミカル㈱代表取締役社長
副部会長・地球温暖化対策WG長	勝又　　宏	大陽日酸㈱常務執行役員技術本部長
副部会長	坂本　公昭	エア・ウォーター㈱常務執行役員オンサイトカンパニー長
副部会長	岩隈　秀峰	日本エア・リキード㈱ジャパン・エア・ガシズ社上席常務執行役員 工業事業本部長
副部会長	安藤　憲雄	岩谷産業㈱上級理事環境保安部長
委員・環境保全WG長	佐藤　浩治	大陽日酸㈱技術本部環境保安統括部環境管理部長
委員・化学品安全WG長	平野　　正	東京ガスケミカル㈱品質保証部長

産業ガス部門　事務局の新体制

専 務 理 事　　豊澤　幸平

常務執行役員　　遠　　嘉樹

常務執行役員　　森　　和博

常務執行役員　　増田　　弘

執 行 役 員　　和田　　彰

総 務 部 長　　肥後　盛長

業 務 部 長　　三浦　義樹
（特殊ガス、水素担当事務局長）

業 務 部 長　　薄井　健次
（溶解アセチレン、炭酸ガス担当事務局長）

経 理 部 長　　大利　益三

北海道地域本部	事務局長	高橋　宏史
東北地域本部	事務局長	和田　　敏
関東地域本部	事務局長	長谷川隆俊
東海地域本部	事務局長	渡辺　弘行
北陸地域本部	事務局長	中村　　孝
近畿地域本部	事務局長	湯浅　正広
中国地域本部	事務局長	桑田　満良
四国地域本部	事務局長	中村　雅裕
九州地域本部	事務局長	塚原　康夫

平成23年度JIMGA医療・産業ガス合同シンポジウム

開催日時：平成23年６月15日（水）13：30～15：25
開催場所：東京會舘　９階　ローズルーム
技術・保安部会部会長　林谷　英司（挨拶要旨）

林谷部会長

本年３月11日に起きました、東日本大震災で被災されました皆様に心よりお見舞い申しあげます。

この未曽有の震災時にJIMGAは産業・医療ガスともに安定供給継続のために全力を尽くして参りました。自ら被災者であるにも関わらず、被災地への産業・医療ガスの供給に全力をあげて頂きました東北・関東地域の会員の皆様に心より御礼申し上げます。

本日のJIMGAシンポジウムは「震災」を中心にその状況、自主保安がいかに実施されてきたかを産業、医療分野の講師の方々に４つのテーマで講演をして頂きます。本日のこのシンポジウムが皆様の日ごろの業務にお役にたてれば幸いです。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願いし、挨拶にかえさせて頂きます。

プログラム

講演１．充てん技術WG（産業ガス部門）
「充てん所の地震対策指針」
日本エア・リキード㈱　農頭　重喜氏

講演２．保安対策WG（産業ガス部門）
「高圧ガスローリ乗務員保安指針」
岩谷産業㈱　美澤　秀敏氏

講演３．技術委員会（医療ガス部門）
「東日本大震災被災地での医療ガス配管設備の例」
（阪神淡路大震災の教訓は、どのように生かされたか）
㈱セントラルユニ　大杉　隆氏

講演４．在宅酸素部会（医療ガス部門）
「東日本大震災における在宅医療患者への対応について」
（DVD［携帯用酸素ボンベの取扱い注意］）
帝人ファーマ㈱　河島修一郎氏
フクダライフテック㈱　牧野　昱氏

以下に、聴講者の皆様からお答え頂いたアンケートの一部を紹介します。

「今回頂いた資料を職場の安全活動の参考にしたい」
「どの発表も具体的で分かりやすく、震災後３カ月ということもあり、リアリティがあり講師の発表にも熱意が感じられた」
「震災が発生した時点でどの部位が弱点となり不具合内容が明確になり今後の処置対策の方向付けができた。震災の教訓を大いに生かしたい」
「“災害への備え”とは具体的に何を備えておくとよいのか？というところはもう少し詳細が知りたかった」
「日ごろの着実な努力が今回の大震災で実証されたことがよくわかった」
「転倒防止のあり方をもう一度わが社なりに勉強させて頂き、今後も新しい対応方法を教えて頂きたい」
「一講演の時間が短いので、次回以降テーマを絞り込み、講演内容の充実をお願いしたい」

アンケートへのご協力、ありがとうございました。今後の参考にさせて頂きます。

シンポジウム風景

定時総会

日　　時：平成23年6月15日㈬　16：00～17：10
会　　場：東京會舘　9階　ローズルーム
　　議決権数　1,085票
　　出席会員数 831票（うち委任状 690票）
議　　長：豊田 昌洋 会長

議　　事

事務局は定款第23条により委任状を含む出席者数が定足数に達しており、本総会が成立している旨議場に報告した。豊田会長が議長席に着き、開会を宣するとともに直ちに議案の審議に入った。

定時総会に先立ち、医療ガスおよび産業ガス部門総会が開催された。

＜産業ガス部門総会＞

第1号議案　産業ガス部門評議員の選任について

本議案について現任評議員の辞任による評議員候補者12名の承認審議を諮ったところ、産業ガス部門出席会員の全員はこれを承認した。（評議員一覧は前掲の通り）

＜定時総会＞

第１号議案　平成22年度事業報告及び決算（計算書類）承認の件

本議案について、議長の指示により事務局から平成22年度事業報告と決算の説明がなされた。議長の指示により監事から監査報告がなされた。

議長が出席会員に諮ったところ全員の賛成により承認された。

第２号議案　平成23年度事業計画及び収支予算(案)承認の件

本議案について、議長の指示により事務局が平成23年度事業計画及び収支予算（案）の提案説明を行い、議長が出席会員に諮ったところ全員の賛成により承認された。

第３号議案　評議員、理事および監事の選任の件

本議案について、議長の指示により事務局が現任理事、監事の辞任による理事、監事候補者の説明を行い、議長が出席会員に諮ったところ全員の賛成により承認された。議長より選任された理事・監事に確認を求めたところ全員就任を承諾した。

新任理事：林谷英司、栗林秀和、竹内弘幸
新任監事：岩崎廣和、藤井恒嗣

その他報告事項

⑴ 会員の現状について事務局から報告があった。
⑵ 今後の主要日程について事務局から報告があった。

閉　会

議長は以上で本総会における議案の審議および報告を全て終了したことを告げ、17時10分閉会を宣した。

定時総会風景

懇親会

会長挨拶

会長　豊田　昌洋

私どもJIMGAもこの一年間、出来るだけ透明性のある会の運営を図り、尚かつ会員の皆様方が出来るだけたくさんお集まり頂けるよう運営して参りました。現在JIMGAはいろいろな課題を抱えております。まずJIMGAの組織を改正し透明性のある運営をして行きたいと思っています。先ほど総会で申し上げましたように、国内外で大きな課題をかかえておりそれぞれのワーキンググループ、部会で取組んでおります。保安と安全への追求、それに伴うRFタグの推進、そして更には環境に対する問題、これは特に今年、夏から起こって参ります電力問題が大変大きな問題となっています。私どもは年間90億kWhの電力を消費いたしておりますが、日本の産業界は約１兆kWhで、産業界の1%の電力を消費している電力多消費産業です。そのような中これから環境税、再生エネルギーの全量買い上げ、あるいは排出権の取引等々で電気にかかる費用がますます増してきます。

１円上がれば業界全体で90億円、10円上がれば900億円、今の原子力の問題を考えますと早晩かならず二桁の値上げとなるのではないかと心配をいたしております。ヨーロッパでは既に電力多消費産業に特別の措置がとられており、昨年、当協会の人間を派遣し研究しております。今後は他団体や、上部団体とも協議しながら、電力多消費産業への格別のご配慮をお願いするためがんばって行きたいと思っております。医療ガス部門も今回の東日本大震災におきましては大変適切な活動をいたしまして当局から要請のあった医療用酸素を全国から集め、提供いたしました。また関東あるいは東北におきまして自らも被災しているにも関わらず社会のために身を粉にして働いて頂きました。その心意気に心から賛辞、賞賛申し上げます。初期対応はひととおり終わりましたが電力問題、放射線の問題も残っておりJIMGAとしてもきちんと解決しなければなりません。

我々は一層の努力をして東日本の再生のために全力を挙げて参りたいと思っておりますので、今後とも是非ご支援、ご鞭撻の程お願いいたします。

ご来賓祝辞

経済産業省大臣官房審議官

市川　雅一　殿

挨拶に先立ちまして、今回の東日本大震災では、会員の皆様に心よりお見舞い申し上げます。この度の震災はかつてない大規模なものでございました。実際に私も東北地方の被災地を訪問しまして、津波によって、骨組みだけ残った建物、がれきの山はいまだ手つかず、撤去作業も進まない状態でした。また、この時期においては、津波が引いた後の異臭が気になるところでもあり、このような状況は震災による大きな爪痕と痛感しています。自社あるいは取引先の被災、福島原発の間接的な影響、さらなる海外を含めた風評被害、また電力供給力の低下などで世界のサプライチェーンに影響が生じております。会員の皆様におかれましても、自社が被災された会員の皆様、直接被害に遭われなくても取引先などの被災により、影響を受けていることと思います。その中で産業ガスや医療ガスの重要性が更に広く再認識されました。震災の発生直後から、業界全体として医療ガスの被災地への供給を献身的にご対応頂きましたことをこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

また甚大な被害を受けましたプラントの復旧に会員の皆様が尽力し、６月から順次、稼働が再開され

ると聞いており、あらためて日本企業の底力を心強く感じております。現在、関東地方、東北地方におけます電力不足に関する問題は広く会員の皆様にご迷惑をおかけしております。ご承知の通り、この夏の電力需給対策といたしまして、5月13日に政府の電力需給緊急対策本部におきまして、大口需要の関係企業に対しては前年比15%の削減が決定されました。ご不便をおかけしますが、電力使用制限の趣旨をご理解くださいますようにお願い申し上げます。経済産業省といたしましても、関係省庁一丸となりましてこの危機を乗り越え、我が国の経済・復興・支援・成長、被災地の皆様の一日も早い生活の再建に向けまして、取組んで参りたいと思います。最後になりますが、貴協会のますますのご発展、本日ご参加の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしましてご挨拶といたします。

ご来賓祝辞

厚生労働省医政局長

大谷　泰夫　殿

貴協会におかれましては、平素より医療用ガスの安定供給、安全管理など医療を支える医療用ガスを通じて、わが国の保険医療の水準の向上を図られ、更には在宅酸素療法用酸素供給装置の保守点検業務の健全な発展に大きく貢献して来られました。このことに対し深く敬意を表する次第でございます。特に今般の東日本大震災の発生で被災された会員の皆様には心よりお見舞いを申し上げるとともに、被災地への医療用酸素ボンベの連携した供給につきましては、会長はじめ会員並びに関係者の皆様の多大なるご協力に対して、この場を借りてあらためて厚く御礼を申し上げます。平素からの準備、また有事における瞬発力を発揮され大変立派な動きをして頂いたということで、心から感謝申し上げます。

現在、厚生労働省では第一次補正予算を通じて一日も早い復興に向けて取組みを進めておりますが、また更に次の補正という準備も出ておりまして、予算の問題や各地域における医療の復旧、どのような医療機関が、どのような配置で、どのような役割を機能分化して行くかを含めて、新たな地域における医療の再興についても各地元と相談しながら今後の取組みを急いでいるところでございます。

今回の震災の中で在宅酸素療法の酸素供給装置の保守点検業務に非常に貢献頂きましたが、震災はもとより普段の平常業務として日本全国の医療の安定供給の必要を片時も忘れることはございません。引続き、ご協力賜りたいと思っております。震災、津波など、今回のような時に医療、あるいは酸素ガスの重要性が更に認識されるわけでございまして、これを教訓にして次なる取組みを進めて行きたいと思いますので引続きよろしくご協力を賜りたいと思います。

今後、予算編成や診療報酬の改定など平時の仕事も急務になってきておりますので、ご相談申し上げながら取組んで参りたいと思います。最後になりますが、日本産業･医療ガス協会のますますのご発展、また会員の皆様方、関係者の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げましてご挨拶といたします。

ご来賓祝辞

高圧ガス保安協会

会長　作田　頴治　殿

平成23年度、産業・医療ガスの定時総会が滞りなく終了したと伺っております。豊田会長はじめ会員の皆様のご尽力に対しまして心から敬意を表しますともにお祝い申し上げます。さて、来賓の皆様からもお話がございました通り３月11日に発生しました、東大日本震災に触れないわけには参りません。未曽有の大地震､想像を絶するような大津波､そして福島の原発の大事故、三重苦といえるほどの大災害が起こりました。今回の災害で高圧ガス保安協会は、大津波でプラント、タンク、ボンベが破壊、

流出したという事故で二次災害が発生するのではないだろうかと大変懸念をしておりました。ところが高圧ガス保安協会で現在までに把握しておりますところ20数件の災害にあわれた中では、水素の小規模な爆発事故が、わずか１件発生したとのことで、二次災害には至っておりませんでした。これはひとえに被災地の事業者の皆様方や宮城県をはじめとした地方自治体が、広報活動をされ、警察庁、消防庁、自衛隊などの協力を得て流出したボンベの回収にあたった結果により、二次災害の発生を防ぐことができたものと思います。常日頃から高圧ガス関係事業者の皆様が地域の関係団体との協力関係を築いてこられた成果がこのような形であらわれたと思います。

先ほども市川審議官のお話にも出ましたが、これだけの大災害が起きまして、一般高圧ガスの供給再開がすみやかに行われたことは、事業者の皆様が大変熱心に取組まれた結果だと思います。先日宮城県の多賀城の海岸沿いにて事業者の皆様が熱心にプラントの再開に取組まれている姿を拝見しました。早めの供給に力を注いだということは特筆すべきことだと思います。この一般高圧ガスは産業の基礎物資ですから、安定供給が何よりも大切でございます。そのような意味でも安定供給にいち早く取組み事業者の皆様が、お互いに協力し合って、融通し合っているので大変高く評価するべきことだと思っております。私どももそういった皆様のご尽力に対しまして、心から敬意を表します。

今回の震災事故に関して保安の確保が第一でございます。今まさに保安の基本に立ち戻って、保安の確保に邁進して行くべきだと思います。保安の基礎は、危険物の所在を明確にし、メーカーで管理し、危険物の取扱いに関しては細心の注意を払い、二次災害の頻発を防ぐことではないかと思います。やはりここで保安に関して、もう一度基礎に立ち返るということが大切だと感じております。皆様もご存じの通り、現在、高圧ガスの事故状況は楽観視する状況ではございません。平成12年以来、年を追うごとに事故件数は増えておりまして、平成22年は、380件と過去最悪の件数を記録しております。この事故の大半は製造事業者のガスの漏えいが占めていますが、状況は予断を許さないと思います。

今回の災害を機に、もう一度保安の原点に立ち返って事故の撲滅により一層のご尽力をお願いしたいと思います。

最後になりますが、日本産業・医療ガス協会のますますのご発展、また会員の皆様方、関係者の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げましてご挨拶といたします。

乾杯挨拶

副会長　松枝　寛祐

この度の東日本大震災からすでに３か月が経過いたします。この大震災において被災されました各会員の皆様も、復興にご尽力され、日本産業・医療ガス協会とそのメンバーである我々が一致団結して、事にあたったということを世間の皆様から評価して頂けたのは、大変ありがたいことと思っております。またこのような大規模な災害が起きた時に緊急対応ということで、我々JIMGAも一致団結して準備をしなければならないこともあります。

今回も通信や物資の製造・車輸送などのいくつかの問題点があげられましたが、今回以上に今後はスムーズで効率的な災害時の体制構築を考えて行きます。

あと一つだけお話をさせて頂きます。JIMGAも会員になっておりますが、IOMAの世界大会が10月から11月のはじめに京都で開催する予定で当初250名近くのメンバーの皆様がお越しになるはずでした。残念ながら震災等の影響で中止となりました。しかしながらIOMAの理事会が「日本を元気づける」ということで11月１日に東京で会議を開催することを決定し、更に、今回の震災に関しまして、IOMA

メンバーから日本への震災の義捐金をJIMGAにとりまとめてほしいと申し入れがありました。そして、JIMGAでは受ける体制を整え、IOMAメンバーからの義捐金が集まりはじめました。世界にもJIMGA の存在が認められてきています。

今後ますますいろいろな意味での規格・安全など整合化が進められて行く中で、我々JIMGAの果たすべき役割は多いと思っております。会員の皆様にもいろいろなメンバーを派遣して頂いておりますが、今後、それを通じて日本にJIMGAありと強く訴えて行きたいと思いますし、IHCという国際整合化の仕事に携わっている、会員の皆様にも感謝したいと思います。

中締め挨拶

副会長　岩澤　利雄

ご来場の皆様、会員の皆様には長時間にわたり最後まで、お付き合い頂きありがとうございました。3月の大震災後にも関わらずJIMGAの総会、懇親会が滞りなく行われ、お開きの運びとなりました。これもひとえに皆様のご指導・ご協力の賜物と厚く感謝しております。ありがとうございました。ご来賓の皆様のますますのご健勝と企業団体のご繁栄、今回の災害にあわれた方々の一日も早い復興をお祈りしています。

懇親会風景

平成22年度　事業報告

産業ガス部門事業報告

1．定時総会

産業ガス部門　部門総会

平成22年６月16日開催

理事会

第１回：平成22年６月16日

第２回：平成22年６月16日

理事会・評議員会合同会議

第１回：平成22年５月25日

第２回：平成22年11月25日

2．総務部会事業報告

平成22年４月９日開催

(1)「JIMGA会議ルール」を制定。

(2) 産業ガス部門組織改訂。分科会の見直し、環境・安全部会の設置等が承認された。また理事メンバーを医療及び産業ガス部門から同数選出するという規程を新たに加える等の組織規程の見直しを、理事会に上程することを決定。

(3) 平成21年度決算案及び平成22年度予算案。

(4) 売上高調査の実施。２年毎に調査、データの取扱いに十分注意しながら予定通り実施。

平成22年11月18日開催

(1) 産業ガス部門の組織の一部改訂が行われ、広報委員会の設置と事務局に広報・地域本部担当の執行役員の設置。

(2) 消費税の税抜き会計処理、減価償却方法、退職金引当方法等を折り込み、経理規程の改訂。

(3) ２年に一度の売上高の調査の結果報告。

(4) 平成22年度産業ガス部門上期の決算。

(5) RFタグの課金について

RFタグ運営委員会から、JIMGAがRFタグ事業を実施することに必要な事業費を回収することについて、タグ1個につき30円、書き込み・読み取り機1台につき年間1,000円課金することが提案、承認された。

(6) 理事会・評議員会合同会議の開催、人事異動について報告。

3．広報委員会事業報告

(1) 広報WGの機能を拡大し協会内外への情報発信の強化の観点より、平成22年11月25日の理事会の承認を経て正式発足。

(2) 平成22年10月７日、第一回広報委員会を開催。

① ホームページの改善。現状のホームページを会員会社が利用しやすいように改善を現在検討中。平成23年８月に実施予定。

② JIMGAnewsの新規発行。平成22年12月に創刊、2ヶ月に一度のペースで発刊中。JIMGAの日常活動について会員の理解を得ることを主たる目的として発行。産業ガスレポートの見直し。JIMGAの記録書的役割は不変だが、発刊回数、制作・編集業者の見直し等。

③ 東日本大震災時、平成23年3月22日にプレスリリースを実施。震災に関する各種情報の発信を、電子メールやホームページで行った。

4．企画部会事業報告

(1) 平成22年11月17日、平成23年５月９日の２回開催。

(2) 新組織下で「企画部会」として再編。期中で特殊ガス・水素両企画委員会（活動報告は技術・保安部会参照）を編入、企画部会運営規程を制定。

(3) 長期停滞容器回収推進WG

① JIMGA本部及び地域本部が、全国各地方自治体からの容器管理指針発行を支援。

② 容器賃貸借契約、有償化の推進。

③ 米国における容器賃貸借契約状況についてレクチャーを受けた。

(4) グリーン物流WG

① ガス業界全体における2006年度比のCO_2排

出量を算出するために調査した燃料原単位、燃費はわずかながら向上していることを確認した。

② モーダルシフトに着目し鉄道輸送の模索を開始。

(5) 容器処理WG

① KHK容器処理事業特別補助枠の3年間の最終年度であったが、383万円の予算をほぼ消化。平成23年度以降も継続決定。

② 容器特別回収月間（平成22年10月）に参加、容器賃貸借契約の推進効果もあり回収本数は年々減少傾向（前年比800本減）。

③「放置容器・不明容器等引き揚げの際の措置について」の周知文書を作成。

5．容器RFタグ運営委員会

(1) Step 3の最終段階となり委員会社での導入も進み4万本への装着に至った。平成23年度からの全国展開フェーズであるStep 4に備え、全国で普及のための説明会を重ねた。また全溶連とのタイアップを積極的に行い併せてマスコミにも積極的に情報発信を行った。

(2) 技術サブWGも開催し技術課題の解決に取組んでいる。

(3) 特殊ガス、カードルへの展開の問題点等を抽出、検討中。

6．技術審議委員会事業報告

(1) 平成22年5月25日、平成22年11月15日開催。

(2) 審議、承認案件は計14件。案件の一例は、

＊ホスフィンの安全な取扱い指針
＊高圧ガスローリ乗務員保安指針
＊安全DVD（酸素による事故事例と安全対策）
＊充てん工場の地震対策指針
＊シランの安全な取扱い指針
＊高圧ガス分類・表示・MSDSガイドブック

7．技術・保安部会事業報告

(1) 平成22年5月14日、11月16日開催。
部会全体の活動実績、計画の報告、承認。

(2) 容器技術WG

① ISO/TC58国内委員会への参画と基準原案の検討。ISO原案の審議は11件、

例えば

＊ガス・混合ガスに関する毒性の決定（賛成）
＊アセチレン容器の充てん条件と充てん時検査（反対）
＊容器の警告ラベル（賛成）

② TC58／SC4国際会議への参加。RFタグ、アセチレン容器多孔質マス性能試験要領等において日本の意見をかなり反映させることができた。

③ JIMGA自主基準の制定。「安全な容器弁の取り外し指針」を制定。

(3) 超低温貯槽ＷＧ

① 低温弁の耐久性に関する対策を最優先事項として取組む。ねじはめ輪(外ねじタイプ)の恒久対策を「JIMGA安全ニュースNo3 Part3」としてまとめ、平成22年度第2回技術審議委員会に上程した。

② 国内法関連では、高圧ガス保安法及びKHK基準等を詳細に検討、基準に不合理があった場合は、外国基準の引用も含め対応を検討。

③ 高圧ガス販売事業者保安セミナーで、「CEの構造と安全な取り扱い」、「日常巡回点検記録票への記載要領」等について講演を行った。

(4) 充てん技術WG

①「地震時における充てん工場の保安対策」を平成22年11月制定、技術審議委員会でも承認され、啓蒙活動を開始。

②「可搬式超低温容器再検査基準」のセミナーを各地で引続き実施。北海道をもって終了した。

(5) 保安対策WG

① 技術審議委員会の承認を経て、平成22年7月、「高圧ガスローリ乗務員保安指針」を制定。

②「CE自主保安検査基準」について各社の現状調査を完了。JIMGAが実施要領を作ることでKHKに協力する体制を構築。

(6) 教育・研修WG

① 安全DVD(酸素編)を完成し、JIMGA会員に無償配布。地域本部でのセミナーで使用。

② e-ラーニングの原案を完成。産業ガスを取扱う上での一般的な安全知識について講義型のe-ラーニングを作成、HPにも掲載。

(7) 溶解アセチレン技術WG

① 昨年に10社体制で活動開始。

② 5年ごとのJISの見直し作業を実施、平成23年度改訂に向け作業中。

③ ISO TC58/WG9の国際会議に参加するJIMGA技術保安部会員に、溶解アセチレンに関する日本メーカーの考え方、技術的見解や意見を伝えた。

(8) 炭酸ガス技術WG

① 昨年22社で組織化し活動開始。全体会議(22社)と別に定例会議委員を選任、現在隔月で会議を開催中。JIMGA技術・保安部会、環境安全部会、国際部会への派遣委員を決め、関連案件課題を処理。

② 液化炭酸ガスのGHS対応ラベルモデルを検討し、JIMGAホームページに掲載した。

(9) 特殊ガス企画委員会及び特殊ガス技術WG

① 特殊ガス企画委員会は、平成22年12月に14社にて設立された。
セレン化水素、ホスフィンの充てん要領の規制緩和を経済産業省に要望、本年1月17日要望通り改正、施行された。最大充てん量はセレン化水素では5.6倍、ホスフィンは1.8倍となった。

② 特殊ガス技術WGは、国際整合化に関し、NITE分類以外の特殊材料ガス40種類のJIS Z 7250：2005対応MSDSの改訂を行い、技術審議委員会に上程、承認を受けた。

(10) 水素企画委員会及び水素技術WG

① 水素企画委員会は、平成23年2月に18社で設立された。圧縮水素出荷実績集計及びJIMGA事業への参画を行った。

② 委員会、WGで、「水素ガスハンドブック」と「水素ガス移動基準」の講習会を継続的に各地域本部で実施。

(11) 安全統計WG

① 労働災害統計調査を実施、分析を行った。回答事業所数は207社と過去最高、度数率0.51、強度率0.02もこの数年で最も低い水準となった。

② 高圧ガス関係事故(災害)のトレース、分類、改正を推進。「JIMGA安全ニュースNo5」としてまとめ、技術審議委員会に上程、承認を得た。

(12) ヘリウム技術WG

① IMDGコード見直しに伴う告示改正に対する国土交通省との折衝経緯について、「液化ヘリウム輸送容器の取扱いについて」として取りまとめた。

② ヘリウムガス及び液化ヘリウムのMSDSの内容データを精査、改訂した。

8．環境・安全部会事業報告

(1) 平成22年5月の理事会・評議員会で新たに設置された。
平成22年9月22日、11月19日に部会を開催。環境自主行動計画フォローアップ調査、日本経団連次期行動計画、地球温暖化対策、産業ガスレポートに掲載する座談会等について検討を行った。

(2) 環境保安WG

① 環境自主行動計画フォローアップ調査を行い、エネルギー原単位指数で76（1990年=100）を達成、日化協の努力目標値80の継続達成を確認した。

② JIMGA会員の地球温暖化防止策に関する技術、実施例をまとめHPに掲載。

③ カーボンフットプリントのデータ充実。

(3) 化学品安全WG

① MSDSに会員よりよせられた修正点を検討しHP掲載内容を修正。GHSラベルの啓蒙普及活動の推進。

② 「産業ガスの分類・表示及びMSDSガイドブック」(GHSに基づき適切に分類・表示するためのガイド）を作成、11月の技術審議委員会で承認を得てHPに掲載。

③　改正化審法について、経済産業省などからの提案について業界の立場から対応。

(4) 地球温暖化対策WG

①　関係三法（地球温暖化対策税、再生可能エネルギー全量買取制度、国内排出量取引制度）について、経済産業省などに意見、要望を提出。電力多消費産業への過度な負担の軽減を要請。

②　日本経団連次期行動計画「低炭素社会実行計画」へ日化協を通じて参加した。

③　海外産業ガス団体の地球温暖化対応の情報入手と意見交換。

9．国際部会事業報告

(1) 平成22年5月26日、11月８日に開催
IHC対応WG及び規制改革WG活動実績、計画報告、承認。IOMA（GC含む）への対応、台湾THPGIAとの技術交流会。

(2) IHC対応WG

①　IHCの完了プロジェクトのJIMGA自主基準化の推進。15件の案件。

例えば

＊シリンダー内部腐食
＊酸素・窒素の安全な放出場所
＊NF_3（改訂版）

②　検討中及び新規プロジェクトへの積極的な参画。17件の案件。

例えば

＊産業ガス製造所におけるセパレートガスの大量貯蔵指針
＊外槽の設計・運転指針
＊誤発進の防止

③　JIMGA提案課題のフォローアップ。

＊ヒヤリハット
＊半導体特殊材料ガスの安全な取扱い
＊セレン化水素（JIMGA単独リードのプロジェクト）

④　IOMA及び地域別団体であるEIGA、CGA、AIGAとの交流、関係継続。

(3) 規制改革WG

①　規制改革要望事項の発掘、募集、内容審議、官への提出、実現に向けての行動。

②　2001年からの継続審議中の14課題につき、プロジェクトチームの検討等を通じて実現を図る活動。

例えば

＊高圧ガス設備または貯蔵設備に設けられた圧力計の比較検査に用いる圧力計の検定。
＊自動車搭載用液化天然ガス燃料タンクの振動試験規格規制改訂。

③　海外の規制、基準の調査、情報の発信。

10. 地域本部と本部との一体運営

(1) 地域本部との情報共有化、一体運営の促進を図るために、豊田会長が就任直後、全９地域本部を訪問、地域会員と意見交換を実施。

(2) 地域本部本部長・事務局長会議を平成22年11月１日開催。議題はRFタグの普及推進、長期停滞容器回収について。また本年３月30日に地域事務局長会議を開催。議題は地震関連、内部監査、医療ガス部門会費システムについて。

11. 東日本大震災対応

(1) 震災直後から本部、東北地域本部にて緊急震災対応体制を敷き、対応した。医療ガス部門と共同で、ガスがライフラインであることを関係者に積極的にPRを行った。

(2) 産業ガス関連では、本部、東北地域本部、関東地域本部等で、関係官庁との接触・交渉を頻繁に行った。具体的には電力問題、輸送手段の確保、流出容器対策等を実施した。
特に電力問題では計画停電（輪番停電）回避を産業ガス業界として強く要望した。

(3) 被災会員について理事会の承認を得て会費の減免を実施した。

平成22年度総会、部会、WG会議等開催記録

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
総会・理事会・評議員会・賀詞交歓会等					
1	平成22年度産業ガス部門総会・定時総会	産業ガス部門総会 1）産業ガス部門評議員選任の件 定時総会 1）平成21年度事業報告及び決算の承認を求める件 2）平成22年度事業計画及び予算の承認を求める件 3）常勤役員報酬総額限度額の件	1回	6/15	
2	理事会	第1回 1）総会提案議題について 2）情報管理規程の改定について 3）新入会員の承認について 第2回 1）会長及び副会長等の選任並びに部門別理事会所属理事の選任について 2）総会等における会長に事故があるときの議長就任順位について 3）顧問及び参与の選任について 4）組織規程の改定について	2回	6/16 （第1回、2回）	
3	理事会･評議員会合同会議	第1回 1）平成21年度事業報告及び平成21年度収支決算報告の件 2）平成22年度事業計画の件及び平成22年度予算（案）の件 3）産業ガス部門理事及び評議員候補者選任の件 4）定時総会招集の件 5）情報管理規程改訂の件 6）組織規程の改訂及び地域本部組織変更の件 7）入会の承認の件 8）その他報告事項（会員の動静、今後の主要日程） 第2回 1）JIMGA組織規程の一部改定（案）（産業ガス部門の変更） 2）入会希望事業者審査の件 3）容器RFタグの課金について	2回	5/25、11/25	
4	賀詞交歓会	東京會舘にて開催	1回		1/12

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
技術審議委員会					
1	技術審議委員会	第1回 1）国際会議出席旅費一部負担実績 2）上提案（5件）の審議、承認 第2回 1）国際会議出席旅費一部負担実績 2）上提案（9件）の審議、承認	2回	5/25、11/15	
総務部会・広報委員会					
1	総務部会	第1回 1）前回議事録確認 2）会議ルールの制定について 3）産業ガス部門組織の改組について 4）平成22年度定時総会の開催について 5）平成21年度決算案及び平成22年度予算案 6）売上高調査の実施について 7）事務局職員の異動について 8）その他（業務システムのバージョンアップ） 第2回 1）前回議事録の確認 2）産業ガス部門組織の一部改組について 3）経理規程の改定について 4）売上高調査の結果について 5）平成22年度産業ガス部門上期決算について 6）理事会･評議員会合同会議の開催について 7）RFタグ運営費用の回収について 8）その他（事務局人事異動）	2回	4/9、11/18	
2	広報委員会	第1回 1）広報委員会発足にあたって 2）新委員会の当面する課題 3）委員会内の組織編制について 4）広報委員会活動における医療ガス部門との関係について 5）今後の委員会の開催について	1回	10/7	
3	広報委員会 正・副委員長会議	1）委員会（委員参集の会議）の機能及び運営要領 2）広報手段（JIMGAnews、産業ガスレポート、ホームページ）における機能区分と発行・更新頻度及び編集・承認ルートについて 3）各広報手段のタスクフォース構成メンバー 4）ホームページのリニューアルについて	1回		3/1
4	広報WG	産業ガスレポート　23号、24号編集	2回	7/16	3/3
5	広報TF	産業ガスレポート　23号、24号編集、JIMGAnews	5回	7/6、11/2、11/19	1/19、2/18

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
企画部会					
1	企画部会	第1回 1）部会運営規程制定 2）独占禁止法遵守ガイドライン 3）上期活動進捗状況報告 4）WG個別ルール制定 第2回 通期活動総括及びH23年度活動計画	2回	11/17	5/9
2	長期停滞容器回収推進WG	第1回 1）会議ルール･独禁法遵守指針 2）成果確認 3）海外商慣 4）行調査報告 第2回 1）自主規制浸透度精査 2）RFタグとの並行推進 3）容器 4）管理台帳整備状況 第3回 1）容器管理指針発行状況 2）地域支援策 3）自主規制進捗度アンケート計画 第4回 1）容器管理指針格好状況 2）アンケート結果考察 3）震災対応	4回	8/10、10/13、12/14	4/14
3	グリーン物流WG	第1回 1）CO_2削減策 2）スケジュール･目標設定 第2回 1）モーダルシフト意見交換 2）環境自主行動計画フォローアップ 3）LCI調査 第3回 1）モーダルシフト検討（JR貨物 東京貨物ターミナル視察） 第4回 1）モーダルシフト考察 2）CO_2削減 3）次年度活動計画	4回	7/21、9/28、12/10	4/14
4	容器処理WG	第1回 1）高圧ガス容器特別回収プロジェクト 2）前年度成果審議 3）同年度計画立案 第2回 1）所有者不明容器撲滅施策 2）容器処理周知施策検討 第3回 1）容器回収啓蒙文書検討 2）地域動向 3）事故対応状況 第4回 1）容器回収 2）震災対応 3）事業負担金配賦委員会	4回	7/21、10/13、12/13	3/29

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
容器FRタグ運営委員会					
1	容器RFタグ運営委員会	第1回 1）Step3の状況 2）RFタグ運営コスト試算 3）技術SWG 4）普及･推進活動 5）ISO規格化の推進 第2回 平成22年度下期活動報告 1）活動の経緯 2）実運用（Step3）の取組報告 3）普及・推進活動 4）Step4の開始	2回	10/25	4/6
2	容器RFタグ運営委員会WG	第1回～9回 RFタグの普及について 第2回：広島・岩谷瓦斯にて 第9回：佐世保・西海総合ガスセンターにて	9回	5/14、6/28、7/26、8/30、10/12、11/29、12/16	1/31、3/8

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
技術・保安部会					
1	技術・保安部会	活動実績、計画発表	2回	5/14、11/16	
2	容器技術ＷＧ	ISO TC58、安全な容器弁の取外し指針	7回	4/20、7/27、8/31、9/10、10/18、10/26	1/25
3	超低温貯槽ＷＧ	ISO TC220、規制改革要望、フレキシブルホース	6回	4/8、6/29、9/2、11/1	1/21、3/29
4	充てん技術ＷＧ	充てん所の地震対策指針/新規課題検討	5回	4/9、6/4、7/30、9/28、12/10	
5	保安対策ＷＧ	高圧ガスローリ乗務員保安指針/ＣＥ自主保安検査	7回	4/12、5/6、7/14、11/5、11/19、12/24	2/10
6	教育・研修ＷＧ	e-ラーニング 高圧ガスの安全基礎知識	6回	4/16、7/21、9/16、10/12	1/17、2/21
7	保安セミナー　東北地域本部	自己診断指針、DVD酸素編、CE日常点検強化	1回	9/8	
	保安セミナー　九州地域本部	自己診断指針	1回	9/30	
	保安セミナー　北海道地域本部	LGC再検査基準　DVD酸欠編	1回	10/19	
	保安セミナー　関東地域本部	自己診断指針、DVD酸素編、CE日常点検強化 ローリ乗務員保安指針、DVD酸欠編	2回	11/22、12/8	
	保安セミナー　近畿地域本部	自己診断指針、ローリ乗務員保安指針、CE日常点検強化	2回	10/25	1/26
	保安セミナー　東海地域本部	ローリ乗務員保安指針、CE日常点検強化	1回		2/21
8	ISO TC58 WG8 3807-2改訂検討委員会	ISO3807-2溶解アセチレン容器国内会議	3回	4/22、8/26、12/1	
9	アセチレン技術ＷＧ	ISO TC58 SC4 WG9への提言内容の検討	1回		2/18
10	安全統計WG	事故情報の分析検討 労働災害統計調査報告 高圧ガス関係事故の分類・解析 安全ニュース「高圧ガス関係事故の推移と傾向」 事故情報の分析検討	5回	5/17、7/26、9/13、11/1	1/24
11	ヘリウム技術WG	MSDS改訂検討 液化ヘリウム輸送容器の取扱い 液化ヘリウム容器の自主点検基準	5回	7/6、9/8、11/4、12/7	3/3

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
環境・安全部会					
1	環境・安全部会	部会体制および運営について、WG活動報告 地球温暖化対策の動向と対応	2回	9/2、11/19	
2	環境保全WG	ガスの廃棄指針 地球温暖化対策技術・実施例広報文書 カーボンフットプリント 空気分離装置の電力削減調査	6回	4/12、6/8、8/2、9/27、11/9、	1/25
3	化学品安全WG	改正化審法対応、GHS対応ラベル シンポジウム発表内容 分類・表示・MSDSガイドブック ガイドブック次期改訂課題、国連GHS小委員会	6回	4/7、6/2、8/5、10/6、11/5	1/28
4	地球温暖化対策WG	活動計画、地球温暖化対策動向、欧州調査報告 地球温暖化対策動向、シンポジウム発表内容 日本経団連次期行動計画 日本経団連次期行動計画、税制改正要望 地球温暖化対策動向（排出量取引他） 再生可能エネルギー全量買取制度	6回	4/12、6/8、8/2、9/27、11/9	1/25
5	省エネフォローアップ小委員会	環境自主行動計画フォローアップ調査 フォローアップ調査結果集計結果検討 日本経団連次期行動計画への対応 フォローアップ調査結果まとめ、LCI調査 次期環境自主行動計画フォローアップ調査準備 産業ガス業界のエネルギー効率将来見通し調査	6回	4/21、6/18、7/27、9/16、12/9	3/4

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
国際部会					
1	国際部会	IOMAGC、2WGのH21年度活動・H22年度活動計画 IOMAGC、2WGのH22年度活動週間報告他	2回	5/26、11/8	
2	IOMA	米国サウスカロライナ、Kiawah Island	1回	10/15～10/21	
3	THPGIAとの技術交流会	第7回は2011年秋に延期			
4	EIGA Winter Session		1回		1/31
5	IHC対応WG	H21年度活動・H22年度活動計画、IHCﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対応	4回	7/1、9/7、11/30	3/4
6	IHC国際会議	第27回IHC国際会議並びにDWPJTF会議（08/04）米国ボストン 第28回IHC国際会議並びにDWPJTF会議 ベルギー／ブリュッセル	2回	8/4～8/6	1/1～1/3
7	SiH4AHTF会議	前回宿題の検討、内容の検討、最終会議	7回	4/7、5/20、6/24、7/16、9/8、9/24、10/28	
8	O2CAHTF会議	ドキュメント最終コメント提出	1回	4/23	
9	PH3AHTF会議	最終会議	1回	4/19	
10	規制改革WG	規制改革要望検討	4回	5/21、7/27、10/13	1/17
11	課題推進プロジェクト	規制改革要望検討	4回	5/21、7/27、10/13	1/17

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
特殊ガス企画委員会・技術ＷＧ					
1	特殊ガス分科会定時代表者会議	特殊ガス分科会解散の件	1回	5/11	
2	特殊ガス企画委員会設立総会	特殊ガス企画委員会設立の件	1回	12/9	
3	特殊ガス技術WG	第1回～6回 GHS対応MSDS40種改訂の件、 RFタグの特殊ガス容器への対応	6回	4/21、6/25、8/27、10/21、12/22	3/28
4	特殊ガス技術WG標準ガスチーム会議	第1回～5回 Ⓚ刻印の件、 JCSS標準ガスの不確かさに関する検討、 標準物質協議会規格に関する検討	5回	4/15、6/17、8/20、10/19、12/14	
5	特殊ガス企画委員会統計作成TF会議	第1回～2回　H22年度特殊ガス統計作成の件	2回	3/10	3/30
6	特殊ガスNF_3安全対策会議	第1回～7回 NF_3規制強化対案検討 第8回～10回 NF_3規制強化の件例示基準検討	9回	4/26、5/7、6/11、6/22、7/6、10/4、10/15	2/18、3/25
7	特殊ガスH_2Se充てん容量規制緩和会議	第1回～3回　H_2Se、PH_3充てん容量規制緩和の件	3回	6/11、6/29	1/18
8	特殊ガス技術WG・化学品安全WG合同会議	GHS対応MSDSの件	2回	8/3、11/8	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
水素企画委員会・技術ＷＧ					
1	水素分科会定時総会	水素分科会解散の件	1回	6/17	
2	水素企画委員会設立準備会議	水素企画委員会設立趣意書検討の件	1回	8/5	
3	水素企画委員会設立総会	水素企画委員会設立の件	1回		2/1
4	水素技術WG	第1回、2回、4回　水素ガス移動基準の件 第3回　見学：水素エネルギー製品研究試験センター	4回	5/28、7/16、10/22	3/4
5	「水素ガス移動基準」講習会講師会議	「水素ガス移動基準」講義内容、時間配分打合せ	1回		1/28

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
溶解アセチレン技術ＷＧ					
1	溶解アセチレン技術WG	第1回　分科会廃止後の技術WG活動の在り方について JIS K 1902 5年毎の見直しの件 第2回　溶解アセチレン技術ＷＧ委員の選任と運営規程の件	2回	9/21、12/2	

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
炭酸ガス技術ＷＧ					
1	全体会議（22社委員会議）	総会	1回	7/22	
2	定例会議（8社委員会議）	第1回 新たな技術WGの組織と活動 第2回 炭酸ガス技術ＷＧ「総会」準備会議 第3回 「安全Web教材　技術者Web学習システム」 第4回 「事故例を活用したリスクアセスメントの紹介」 第5回 昭和炭酸におけるTPM活動の紹介 第6回 NEDO応募「省エネルギー活動」の事例紹介 第7回 化学工学会継続教育プログラムの紹介	7回	6/24、9/15、10/20、11/17、12/15	2/16、4/20

No.	総会、部会、WG会議等名称	議題・会議内容	会議回数	開催日	
				H22年	H23年
地域本部事務局長会議					
1	地域本部長･事務局長会議	1）容器RFタグの現状と普及･推進 2）中間決算報告 3）各地域本部の要望等に対する対応について 4）長期停滞容器回収についての本部からの要請 5）地域本部からの要望	1回	11/1	
2	地域本部事務局長会議	1）地震関連 2）内部監査の実施の件 3）2010年度実績見込み･2011年度予算の件 4）医療会費請求業務システム運用体制 5）連絡事項	1回		3/30

平成23年度　事業計画

1．広報委員会

(1) 協会が果たすべき社会的責任やコンプライアンスへの取組みを、的確に情報発信し、業界の地位向上を図り、JIMGAの事業を支援するために以下の取組みを行う。

① ホームページの更新頻度の向上。事務局によるリアルタイムな更新を行なえるよう、外観・内容の一部変更も含め、8月ごろリニューアルを実施し、運用を開始予定。

② 産業ガスレポートの発行。JIMGAの記録書として活動、事業、重要課題、トピックス、統計データ等を9月、来年3月に発行予定。

③ JIMGAnewsの発行。協会の解説、ニュースなどの通信紙として、活動、事業、ニュース、会員紹介、JIMGA地域本部紹介などの内容で、年6回発行。

④ 一般マスコミへの発信強化。ガス業界、JIMGAへの理解向上のため、協会トップによる記者会見や記者懇談会により、直接発信を行う予定。定期的なものとしては、6月及び11月に実施予定。

2．企画部会

(1) 各WG間での情報を共有し、保安確保を目的とした活動を継続する。

(2) 前年度実施の容器管理・賃貸借契約のアンケート結果をもとに課題の絞り込み、自治体からの容器管理指針発行支援、RFタグ普及推進、容器賃貸借契約の推進等を行う。全溶連及び31単位組合との連携を更に密にし、容器問題等の解決に取組む。

(3) 長期停滞容器回収推進WG

① 前年度実施した契約化率、有償化率調査アンケートを全溶連レベルまで拡大して実施する。

② 地域本部会議で指摘があった容器管理や販売届出が不備の販売事業者に対し、現状を調査するとともに指導を行う。

③ 容器賃貸借に関して有償化の考え方を整理し、これまで主流であった「延滞料」に加え、「使用料」の導入について討議する。

(4) グリーン物流WG

① 地球温暖化対策WGと情報を共有し、政府動向も注目しながら、課題に取組む。

② モーダルシフトの継続検討。前年度検討を始めたが、具体的な導入条件を設定、シミュレーションを実施し、実現化の可否を考察する。

③ ローリの燃料転換検討。現状ローリ燃料の主流である軽油からCNGへの転換を検討を開始する。

(5) 容器処理WG

① KHK容器処理事業特別補助枠を活用した容器処理推進。平成23年度から改めて配賦された1000万円/3年間を有効活用し容器の処理を推進する。

② 容器特別回収月間は平成23年10月の実施、昨年作成した「放置容器・不明容器等引き揚げの際の措置について」の周知文書を7月に配信し、事業者への周知を図る。

③ 長期停滞容器回収推進WG及び容器RFタグ運営委員会との連携を深め、容器管理システム導入と容器賃貸借契約の推進で、処理容器の発生に歯止めをかける。

(6) 容器RFタグ運営委員会

① 本年度からの全国展開フェーズである「Step 4」を推進、委員会会社で計40万本

への装着を目指す。

② 地域毎の啓蒙活動、説明会を引続き継続し、地域での採用に注力する。また全溶連とのタイアップも引続き重要な課題として活動する。

③ 課金運用の開始と安定化。本年度からJIMGAで管理システムの運用を開始するが、課題を克服、運用を安定化させる。

④ ISO規格化を目指す。

3．技術・保安部会

⑴ 各WG間の情報を共有し、技術、保安に関する検討を推進する。

⑵ 容器技術WG

① ISO/TC58国内委員会活動。委員会への参加と基準原案の検討。

② TC58/SC4 国際会議への参加。

③ アセチレン容器多孔質マス性能試験要領について、コメントを作成し国際会議に臨む。

⑶ 超低温貯槽ＷＧ

① CE～ローリ用フレキシブルホースの定期検査に関する取扱い自主指針を策定する。

② 国内法関連では、引続き高圧ガス保安法及びKHK基準等を詳細に検討、基準に不合理があった場合は、外国基準の引用も含め対応を検討する。

③ ISO TC220 委員会への参加とTC220関連基準を検討する。従来のOメンバーからPメンバー（投票権保有）への移行のための活動を継続する。

⑷ 充てん技術WG

① 集合容器（カードル等）の技術指針を策定する。

② 昨年度作成の「地震時における充てん工場の保安対策」の啓蒙、各地域でのセミナーを実施する。

⑸ 保安対策WG

① 昨年度制定した「高圧ガスローリ乗務員保安指針」の地域での講習会を実施する。

② 「CE自主保安検査基準」の策定に取り掛かり、２年後をめどに完成させる予定。

③ 「高圧ガスハンドブック」の改訂版の作成に着手する。

⑹ 教育・研修WG

① 昨年度完成したe-ラーニングはJIMGAのHPにも掲載しているが、これを広く活用、PRし、ガス業界やJIMGAの理解向上につなげる。

⑺ 溶解アセチレン技術WG

① 水酸化カルシウム（カーバイドスラリー）再利用の検討。カーバイド残渣の中和剤以外の新たな用途、スラリーの脱水技術等の検討を行う。

② JIS見直し作業。前回は、2006年に確認、５年後見直し作業。日本規格協会との意見交換を行う。

③ 規格、基準類の見直しを、検討。容器、充てん、管理のISO標準化に関し調査する。

⑻ 炭酸ガス技術WG

① 炭酸ガス関連規程類の制定。「炭酸ガスローリ乗務員保安指針」の策定検討する。

② 食品衛生管理者の資格要件緩和への対応を行う。

⑼ 特殊ガス企画委員会及び特殊ガス技術WG

① 自主基準、技術指針並びにJIS Z 7250：2005対応MSDSの普及に努める。

② NF_3の規制強化について、経済産業省原子力･安全保安院保安課と引続き折衝を行う。

③ 容器貼り付けイエローカード60種の見直しを10年ぶりに実施。下期技術審議委員会への上程を目指す。

④ 国際部会IHCWGの国際整合化ドキュメントに協力、モノシラン、セレン化水素の作業を継続する。

(10) 水素企画委員会及び水素技術WG

① 「水素ガスハンドブック」と「水素ガス移動基準」の講習会を継続的に各地域本部で実施する。

② 「GHS対応水素ガスPLラベル」を作成、本年度上期の技術審議委員会に上程予定。

③ 圧縮水素の仕向け別・荷姿別出荷実績、集計表を作成する。

(11) 安全統計WG

① 事故情報の収集及び原因分析を行い、ホームページに掲載する。

② 労働災害統計を引続き実施、分析を行い災害防止に活用する。

③ KHK災害事故統計から高圧ガス関係事故（災害）を分類、解析し、業界の安全推進に向け活用する。

(12) ヘリウム技術WG

① 液化ヘリウムデュワー容器は容器検査の対象となっていないが、安全性の確認として自主的な検査基準の具体化に向けて取組む。

② 貯蔵容器について高圧ガス保安法との関連性を整理する。液化ヘリウムコンテナーの取扱いもこの中で整理する。

③ ヘリウムの技術、海外情報の収集と共有化を検討する。

4．環境・安全部会

(1) 3WGとの連携を密にして活動する。
震災後のエネルギー政策の見直しと地球温暖化対策関連法案の動向をフォローし、電力多消費産業の立場から対応する。

(2) 環境保全WG

① 省エネルギーの更なる取組みと電力需給対策への対応を行う。環境自主行動計画フォローアップ調査を参加65社（セパレート62社、液化炭酸３社）で継続する。

② 空気分離装置のエネルギー削減の可能性を検討調査する。

③ LCI（ライフサイクルインベントリー）及びCFP（カーボンフットプリント）に関する作成指針の取りまとめ。

(3) 化学品安全WG

① GHS対応MSDS及びラベルについて、引続き整備と啓蒙・普及に努める。

② 化学品安全への取組みについて、「産業ガスの分類・表示及びMSDSガイドブック」を改訂、最新法規情報を織り込み、健康有害性の記述などを充実させる。

③ 改正化審法や危険物輸送など化学品安全に関する情報収集と会員への提供を行う。

(4) 地球温暖化対策WG

① 引続き主要三法（地球温暖化対策税、再生可能エネルギー全量買取制度、国内排出権取引）をめぐる政策審議、法制化の動きをフォローし、業界としての意見・要望を取りまとめ、政策に反映すべく活動する。
会長記者会見等を通して広報活動を展開をする。

② 日本経団連次期行動計画「低炭素社会実行計画」のJIMGA参加形態の具体化、2020年削減目標を検討する。

③ 産業９団体、日化協等の産業団体との連携を強化する。

5．国際部会

(1) IHC対応WG､規制改革WGのとの連携を図る。
台湾THPGIAとの技術交流会を予定。IHC国際会議、IOMAへの対応を行う。

(2) IHC対応WG

① IHC完了プロジェクトのJIMGA自主基準化を推進する。

② IHC検討継続中及び新規プロジェクトへの積極的な参画を行う。

③ 対象案件が多くなってきたので、次の三段

階に分類することを検討する。

＊今迄通り日本語に完訳。

＊重要部分のみ和訳。

＊英文をそのままとしてJIMGAドキュメントとする。

⑶ 規制改革WG

① 規制改革要望事項の発掘、募集、内容審議、関係官庁への提出、折衝、実現に向けての行動をとる。今後、経済産業省との直接の折衝により、より多くの規制改革要望の実現を目指す。

② 海外の規則、基準の調査、情報の発信。

③ 会員への要望事項の背景と成果を周知する。

6．地域本部と本部との一体運営

⑴ 本年度も全9地域本部を訪問し、地域会員と打ち合わせを行う予定。

⑵ 本部と地域間の双方向の情報の共有化を図る。

⑶ 地域本部でのセミナー、講習会の実施やRFタグの普及推進、長期停滞容器回収について共同で取組む。

7．東日本大震災、原発対応

⑴ 夏期の電力需給対策等への対応。
エアセパレートガスやその他ガスの会員と情報交換し業界としての対応も検討したが、削減率が緩和されたこともあり個別・個社対応を原則とした。しかしながら今後の新たな事態に備えJIMGA内での受け皿を設けた。

⑵ 原発関連事項のフォローアップを行う。

⑶ JIMGAの防災対策を策定し、本部事務所での節電、BCPの検討を行う。

会員の現状、今後の主要日程

平成 23 年 4 月 1 日現在

1．会員の現状

	医療ガス部門	産業ガス部門	合 計
正　会　員※	776社	309社	1,085社
賛助会員	0社	22社	22社
海外会員	0社	5社	5社
合　　計	776社	336社	1,112社

※正会員社数は議決権を表す。

2．今後の主要日程

医療ガス部門	開催年月日	開催場所
平成23年度 第2回理事会･評議員会	平成23年11月24日（木）	メルパルク大阪
平成24年 JIMGA新年賀詞交歓会	平成24年1月11日（水）	東京會舘
平成24年度 第1回理事会･評議員会	平成24年5月23日（水）	東京會舘
平成24年度定時総会	平成24年6月13日（水）	東京會舘

エッセイ

1年だけの熱い夢

株式会社リキッドガス　中井　喜三

「なぜ門外漢の私が？」という驚きと戸惑いのなかで、2年前の7月私は大阪ガス硬式野球部の部長に任命された。それから1年、東京ドーム、大阪（京セラ）ドームのベンチ入りというミーハー的な体験をはじめ、ただひたすら勝利のみを追い求める純粋な集団に混じって本当に「熱い夢」を見せてもらった。

子供の頃から草野球に親しみ、高校野球・プロ野球と野球を見るのは好きだったが、本格的なスポーツの経験もない私が、まさか現役でバリバリやっているメンバーと仲間になるとは夢にも思わなかった。多少の緊張と好奇の念で野球部長に就任した。

野球部の部長というのはある意味中途半端な存在で特段の役割はない。現場は完全に監督･コーチ･選手に任されていて別世界である。試合中は一応ベンチに入るが、試合に関して一言も発することはない。試合後に副部長と一杯飲みながら、不謹慎にも「あそこはこうすべきだった」、「あれはないよなあ」とストレスを解消するのが常である。選手の採用について人事部と折衝するなど監督以下が活躍しやすい環境を整えるのと、ひたすら選手たちを励ますのが役割であろうか。よって大会前とか大事な試合の前後には選手に向かって一言いう機会がある。リラックスさせるためにユーモアを交えて話をしようと努力するのだが、彼らに冗談は全く通用せず調子が狂う。冗談を受け付けない生真面目さからか、あるいは冗談が面白くないのか、何を言おうが30人の真剣な眼差しがこちらを見つめて離さない。因みに職場で話をするときこのような眼差しにあまり出会ったことはない。

2009年7月に部長になって、既に出場が決まっていた東京ドームの都市対抗野球本戦では、ベンチで延長戦2試合を経験した。社会人野球では通常延長11回以降は「タイブレーク」といって、早期決着を図るため毎回1アウト満塁の設定から試合が始まる。まさに一触即発のスリル満点で、初戦はこれを勝ち抜いたが、第2戦では廃部が決定していた古豪にサヨナラ負けし、5泊分の着替えが無駄になった。いずれの試合も前半のリードを守れずに追いつかれ延長戦になったものである。大きな試合になればなるほど勝負は最後までわからない。

秋の大阪京セラドームでの日本選手権本戦では、今年広島カープにドラフト3位で入団した新人投手が好調で、大方の予想を覆して（？）強豪2チームを完封で連破しベスト8に進出した。大阪ガス野球部はこれまで優勝こそ逸しているが、日本選手権で3回、都市対抗で1回準優勝をしている。もしやと試合毎にベンチでの緊張が増してきたが、心配無用、3戦目は接戦をものにできなかった。

しかし、近年の成績低迷の中ではこの年はまずまずの戦績で、年末の納会では全員で健闘を称え、手ごたえを感じながら次年度の更なる飛躍を誓い合った。納会翌日はOB会主催のゴルフコンペがある。野球部OBの結束は固く、職場で要職についているメンバーも、プロに行った面々も大勢が集まる。私は野球部長の役得で今やジャイアンツキラーの阪神のエースピッチャーと一緒にラウンドできる幸運を得た。

翌2010年は、タイガースと同じ西宮廣田神社での必勝祈願に始まり、宮崎キャンプ、オープン戦、地区大会、都市対抗予選と続いていく。社会人野球にとって最大の目標である都市対抗の予選は、あろうことかクラブチームとの緒戦で躓き、その後体勢を立て直せず予選を突破できなかった。件のクラブチームとの一戦は今でも悔やまれる。前

半再三のチャンスをものにできず、終盤相手のワンチャンスに不運なヒットも重なり３点を奪われ守勢に回った。その裏１点を返した後なお満塁で４番のセンターオーバー走者一掃か、と思われた打球が相手外野手のジャンプ一番ファインプレーに阻まれ万事休した。試合の流れは怖いとつくづく感じた。

この後私はリキッドガスへの異動発令を受け、成績不振の責任をとって、ではなく大阪ガス本体から外れたことにより野球部長も退任となった。なお2011年、チームは今年こそと奮起したが、地区代表決定戦で破れ、２年連続都市対抗の切符を逃している。前野球部長が務めるという慣例により、私は現在野球部ＯＢ会長をやらせていただいているが、一日も早い強豪復活を切に願っている。

１年だけの短い経験ではあったが、野球という非日常の世界のなかでいろいろなことに思いをめぐらせた。

まず、なんと言っても、一途に勝利だけを追い求める礼儀正しくて素直な集団と、しばし時間を共にしたことのすがすがしさは忘れられない。公式戦終了後の12月はじめに行われる新体制発足式（今後仕事に専念する選手の退部式でもある）での、現役を戦い終えた選手たちの万感の涙は今も目に焼き付いている。ここにはビジネスの世界のような「負けるが勝ち」や「WIN－WIN」はない。まさに真剣勝負の世界である。

同時に、勝負に勝つことの難しさ、「紙一重」の差が簡単に埋まらないことも痛感した。技術か精神力かとよく言われるが、技術に裏打ちされた精神力、すなわち誰よりも練習したという自負と苦しい試合を数多く勝ち抜いてきたという自信こそがここ一番で生きるとともに、極限の精神状態でも発揮できる確かな技術（これも練習で鍛えるしかない）が必要ということであろうか。劣勢を何度も跳ね返し、最後には圧倒的な強さで勝利した「なでしこジャパン」がその体現のように思う。

一方で「勝負は運」というが、野球の神様がどちらのチームに微笑もうか迷っているような胃の痛くなる試合を数多く見るにつけ、今まで以上に「ツキ」というものを意識させられ、同時に私自身はジンクスでがんじがらめになってしまった。「ツキ」の存在そのものも科学的に実証されているわけではないと思うが、「ツキ」を呼ぶためのある人の話は一面肯ける。それは、その場の状況・流れに身を置き、五感を研ぎ澄まして動静を見る。常に前向きな気持ちと姿勢で即応できる準備を怠らない。そしてチャンスではミスに注意して淡々と、ピンチに体勢を立て直しつつ一気に勝負をかける云々。

仕事においても、揺るぎない実力を蓄えて、心身ともに充実した状態で、常に前向きな気持ちで、「ツキ」をつかみ取れたらと思う。これは夢でなく・・・

「写真は毎日新聞社提供」

技術・国際ニュース

1．技術・保安部会

容器技術　WG

容器に関するISO規格の改訂や新規規格案件について検討しており、影響のあるISO16148；2006年版の改訂について最新情報を紹介します。

ISO16148は、継目なし鋼製容器再検査の耐圧試験で容器に水を入れて加圧・膨張を行う試験からアコースティック・エミッション試験（AT）に代替する規格です。

容器再検査でATを一部採用している米国や欧州の数ヵ国、韓国では、耐圧試験に水を使用しないことのメリットが大きい集合容器や特殊ガス容器、ISOコンテナの再検査にATが利用されています。ATは、容器内をガスまたは液体で常用圧力の110%以上に加圧して、欠陥箇所が発する信号を計測する試験方法です。割れなどの進展が無ければ信号は発しませんが、進展のある場合は信号から概略の欠陥位置を把握できます。しかし損傷程度は解りませんので二次試験として超音波探傷試験（UT）を行い容器再使用の可否を最終確認することになります。５月にISO事務局から提案された改定初期原稿には、次の条件が明記されています。

(1) 賛同国の管轄省庁に承認された検査・証明機関の同意で水圧試験をATに替えることが可能。

(2) この国際規格と他の適用基準に矛盾が生じた場合、その適用基準が常に優先される。

日本は法規制が存在してATが実現していませんが、当該ISOの制定に伴う国内での混乱や支障は無いと判断し、改訂の進捗を監視しています。

メリットもある試験方法のため、技術内容についてWG内で研修会実施によるスキルアップを予定しています。

超低温貯槽　WG

平成23年度、当WGは下記の事項について重点的に活動する計画です。

(1) 自主基準の作成

ローリチャージ用フレキシブルホースの定期検査に関する取扱い自主基準を策定します。

また、昨年度のねじはめ輪に関する成果を反映させるべく、CE設置事業所・ローリ関係基準（JIMGA-T-S/11/08）を改訂します。

(2) 規制改革要望の抽出･実現

昨年度と同じく、高圧ガス保安法の特定則・同例示基準等を詳細に検討し、基準に不合理があった場合､外国基準の引用も含め対応を検討して行きます。

(3) ISO/TC220（超低温貯槽）への参画

従来のOメンバーからPメンバーへの移行のための活動を継続します。また、TC220国際会議にも積極的に参加し情報の収集･発信に努めます。

(4) 高圧ガス販売事業者保安セミナーでの講演

北海道他各地域本部において、CEの構造と安全な取扱い、日常巡回点検記録表への記載要領等について講演を行います。今年度も積極的に本セミナーでの講演活動を継続して行きます。

充てん技術　WG

平成22年度はJIMGA指針として「充てん工場の地震対策指針」を作成し、同年11月技術審議委員会の承認を受け発行しました。

平成23年度は順次、各地域本部にて普及啓蒙セミナーを開催して頂く予定です。会員各位の皆様のご出席をお願いいたします。尚、本指針は平成23年６月15日に開催されたJIMGA合同シンポジウムにおいて、当WGメンバーの日本エア・リキード㈱農頭部長により発表して頂きました。

新年度からの当WGの新しい取組みテーマは「集合容器（カードル）の技術指針」作成とし、作業部会を発足して活動を開始しました。本テーマは新たな大きな取組みとなることから、少し長い期間かか

るものと思われます。

また当WGメンバーのスキルアップとして、本年度もRFタグ実運用工場の見学を予定しています。

保安対策　WG

本年度から「CEの自主検査指針」の作成に着手しました。完成は、２年後を予定しており、将来的には、保安検査基準（KHK-S）の中に、本指針の考え方を網羅して行きたいと考えています。

「高圧ガス販売事業所自己診断指針」については、全国高圧ガス溶材組合連合会（全溶連）との協議を開始し、指針の改訂及び全溶連会員に対する講習会の実施に向け、作業を着手しました。

「高圧ガスハンドブック」については、来春の改訂版発行に向け、現在作業中です。

また､昨年発行した「高圧ガスローリ乗務員指針」については、地域本部主催の保安講習会を通じて、周知徹底を図って行く予定です。

教育研修　WG

教育用教材として講義形式のe-ラーニング（高圧ガスの安全基礎知識）を作成しました。会員企業の関係者向けの教育用だけでなく、JIMGAホームページに掲載し、一般ユーザーにも産業ガスの基礎知識の習得や危険性、取扱い方法について知ってもらうことを目的にしています。内容は「高圧ガスハンドブック」の基礎知識部分を中心に、安全に関する注意事項、事故事例等を盛り込んだものとなっています。

安全統計　WG

高圧ガス保安協会から平成22年の高圧ガス事故集計（平成23年３月）が発表されています。

事故件数を見ますと、平成22年は920件発生し、昨年より更に増加して、最も事故の多い年となっています。災害件数についても平成22年では380件と最多となりました。特に製造事業所での事故は昨年より43件も増加しています。主な現象は噴出・漏えい事故であり、災害事故の増加は噴出・漏えい事故の増加によります。CE設備とCNGスタンドの事故が多く見受けられます。

産業ガス業界においても、更なる事故防止が求められています。安全統計WGとしては、本年は人災事故の分析をガス種別ごとに詳細に解析して行きます。また、会員の皆様より提供頂いた事故などの情報を可能な限り速やかにJIMGAホームページで開示しています。事故防止対策の参考となる情報がありましたら、JIMGA事務局、安全統計WG委員に提供をお願いします。

ヘリウム技術　WG

(1) 高圧ガスの規定と貯蔵容器の判定フロー

液化ヘリウム（デュワー容器、ISOコンテナ）、ヘリウムガスを中心にその他ガスも含め、高圧ガス保安法の「高圧ガス」の規定と貯蔵容器の関連について､質問に対してイエス､ノーを辿って行けば､「高圧ガス」であるか否かを、少ないステップで判別出来るフローシート作成に取組んでいます。

(2) 液化ヘリウム容器（デュワー）の安全確認（自主点検）

デュワー容器は、高圧ガス保安法の規制がなく、各社で安全基準が異なっており、統一自主点検基準マニュアル作成に取組んでいます。現在、検査内容について具体的な検討を開始し、課題分析を行っています。

(3) バンドルの安全対策

バンドルの安全対策については、ヘリウムに限らず、多くのガスが該当しており、関連WGとも連携を取りながら策定して行きます。

炭酸ガス技術　WG

液化炭酸ガス業界を取り巻く事業背景として、大震災後の需要動向不安、原料炭酸ガス源として一部のアンモニアプラントの閉鎖が決定、石油業界・エ

ネルギー供給構造高度化法に伴う製油所の統廃合動向が依然不透明等々、その動向を注視しています。夏季に続いて冬場の電力事情も大きな懸念材料です。

炭酸ガス技術WG新体制２年目の本年５月に、会員企業21社、内17社が出席して炭酸ガス技術WG総会を開催しました。技術・保安に関する“現場力強化に向けて”の情報交換について、総会出席者に広く報告し、更に関心ある方々は関連URLにアクセスを奨励しました。本年も代表８社による隔月WG会議でトピックスを紹介して、会員相互の技術情報交換を推進します。

３年毎に開催される炭酸ガス保安講習会の定例年度は平成24年度になります。今回は分科会廃止後の組織力不足や、東日本大震災・原発事故等があった関係で、どの様にすべきか各地域本部との意見交換を重ね､慎重に企画すべきかと考えている段階です。また食品衛生管理者の資格要件緩和など規制改革要望の課題を､実現するまで継続して取組んで行きます。

（平成23年度炭酸ガス技術ＷＧ総会　H23年5月19日）

溶解アセチレン技術　WG

溶解アセチレン業界にとって毎年厳しい需要動向の中、３月11日の東日本大震災では関東・東北の事業所で大きな被害を受け、特に岩手工業㈱は、いまだ復旧の目処が立たない状況に置かれています。年間需要量も２年連続で12,000トンを割り込み、引続きこの23年度も同じ様な状況下に置かれる心配がありますが、一日も早い復旧・復興に、無くてはならない産業ガス／溶解アセチレンが役立つことを祈るばかりです。

そうした中で溶解アセチレン技術WGは、平成23年度第１回会議を７月21、22日の両日にかけ、大日本アガ瓦斯製造所・大府事業所の見学会を兼ねて開催しました。（JIMGAnews5号参照）

会議では平成23年度活動方針と現在抱えている諸課題に関して討議し、今後引続き問題解決に取組んで行くことを確認しました。

・カーバイドスラリーの処理：電気化学工業の新技術に期待し、ハンドリングの改善を目指す。
・溶解アセチレンJIS K 1902：５年毎の見直しを日本規格協会と相談し検討する。
・地震対策を含め、各社の保安対策の意識向上に努める。
・ISO TC58/WG9 11372､10462：引続きJIMGA容器技術WGを通じ日本の意見を反映させる。

（平成23年度第１回WG会議：於　大日本アガ瓦斯）

水素技術　WG

平成23年２月４日に東京（日本教育会館）、２月21日に大阪（大阪府商工会館）､３月７日に博多（福岡商工会議所）、３月10日に名古屋（菱信名駅ビル）において､「水素ガス移動基準」の講習会を実施しました。この講習会は平成21年12月に改訂した「水素ガス移動基準」をテキストとして多くの方に受講頂きました。今年度も継続的な講習会の開催による安全・技術の啓蒙活動を取組んで行きます。

水素技術ＷＧの平成23年度メインテーマは「水素ガス消費基準」の改訂で、８月より本格的に着手しています。「水素ガス消費基準」は平成10年の改訂から13年が経過しており、消費者の立場に立って全

面的に内容の見直しを行います。改訂版の発刊は平成24年7月頃を予定しています。

また、本年度も４回のWG会議を計画しており、第３回ＷＧ会議は11月18日に見学･研修会を兼ねて鳥取県の容器製造工場を訪問し、会員会社の技術・知識向上を図ります。

特殊ガス技術　WG

(1) 容器イエローカードの見直し等

2003年に作成したイエローカード約60種について、日本化学工業協会での『緊急時応急措置指針』の改訂に伴い、現在その改訂作業を進めています。GHS-MSDSとの整合性を図り、本年度中には改訂を完了し、JIMGAの技術審議委員会に上程を予定しています。また校正用ガスの容器略式刻印に関する自主基準を検討し、本年４月の技術審議委員会にて了解を頂き、JIMGA自主基準（T-S/72/11）として制定されました。今後関係各社において、順次採用の方向で進めています。

(2) 国際部会対応

IHC-WGの国際整合化ドキュメントの作成に委員を派遣し、活動を継続中です。

ここでは、『半導体用の特殊材料ガスの安全な取扱指針』と『H_2Seの安全な取扱い』の作成に参加・協力しています。

(3) RFタグ

混合ガスのコード区分案をRFタグWGへ提案しました。今後も委員を派遣し、RFタグの実用化への取組みを進めています。

２．環境・安全部会

環境保全　WG

産業ガス業界の地球温暖化抑制活動結果として、2010年度の「環境自主行動計画フォローアップ調査」結果をまとめ、日本化学工業協会（日化協）を通して日本経団連に報告しました。JIMGAは日本経団連が発表した2013年以降の次期行動計画「低炭素社会実行計画」への参加を決定し、JIMGAが産業ガス業界各社を取りまとめ、日化協の枠組みに参加します。

「低炭素社会実行計画」を実現するために産業ガス業界の「ガス酸素・窒素」「液化酸素・窒素」「液化アルゴン」「液化炭酸ガス」の生産エネルギー使用実績管理を行い、BAT（最先端技術）による今後の生産エネルギー削減ポテンシャルを調査して行きます。上記生産エネルギーに液輸送エネルギーも加えてLCIデータとしてまとめて行きます。これらLCIデータとEIGA発行のカーボンフットプリント文書を参考に、「ライフサイクル全般（原材料調達から廃棄まで）でどの程度CO_2を排出しているか」を表示するための基本的な考え方をまとめて行きます。

化学品安全　WG

国内で流通している希ガス（ネオン、キセノン、クリプトン）は、圧縮ガスの状態での流通が基本ですが、輸入のキセノンでは、圧力と温度により液化キセノンの場合もあります。この様な液化キセノンに対応したMSDSの作成準備を進めています。

容器等に貼付するラベル（警告表示ラベル）について、GHS対応モデルラベル（胴ラベル様式）を策定し、JIMGAのホームページに掲載しています。策定済みの胴ラベルに加え､ボンベ用に「肩ラベル」の要望があり、今回、一般ガス・混合ガスの26種類および水素のボンベ肩ラベルを作成しています。MSDSを基本にGHSに対応した絵表示や指針番号・国連番号などを入れた内容のラベルを予定しています。

また、危険物の運搬･移送中の事故時に速やかに対応するため、性質や応急措置の方法、緊急連絡先等を記載した緊急措置連絡カード(イエローカード)について、他の技術WGと共同で見直しと改訂作業を進めます。

酸素・窒素・アルゴンのJIS改訂については、今後ワーキング内でガス分析の専門家に意見を聞いて検討を進める予定です。

地球温暖化対策　WG

3月11日の東日本大震災と福島原子力発電所事故により、エネルギー基本計画の抜本的な見直しと地球温暖化対策基本施策の再検討が必要との認識が広まっています。国会審議が中断している中で、地球温暖化対策基本法の再生可能エネルギー特別措置法案が先行して8月26日に成立しました。太陽光・風力・バイオマスなど再生可能エネルギーによる電力を全量固定価格で買取り、買取費用は電気料金に上乗せされ電力需要家が負担する制度です。震災後、原発事故により代替燃料費など電力料金が大幅に上昇する見通しの中での買取費用の負担増加は産業競争力に影響し、産業の海外移転が更に促進される恐れがあります。

JIMGAではこれまで本制度の導入が電力集約型産業に過大な負担を強いるとして、繰り返し負担軽減措置を要望してきました。今回成立した法案では電力多消費産業に対する軽減措置が設けられることになりました。地球温暖化対策WGでは、買取制度の具体化に向けた今後の動きに対応すると共に、エネルギー基本計画・地球温暖化政策の見直し作業の進展をフォローして行きます。

（事務局注：8月26日JIMGAの要望も反映された修正案が参院本会議で全会一致により可決し、成立しました。）

3．国際部会

IHC対応　WG

5月27日開催の技術審議委員会にて、次のIHCプロジェクトのJIMGA基準2つが承認されました。『半導体用特殊ガスの安全な取扱い指針』はJIMGA産業ガス部門図書目録に9月から掲示される予定になっています。また、『充てん中の超低温容器の過剰圧力の防止』については、日本国内においては充てんの実情が海外とは異なるため、当面はJIMGAの書庫に蔵書しておくこととしました。現在、同様にJIMGA基準として検討中のIHCプロジェクトがAd Hoc Task Force（特別小委員会）や各WGで進捗です。

6月10日には、本整合化活動の承認機関である、IOMA Global Committee会議が開催されました。今回の会議では、新規IHCプロジェクトの承認はありませんでした。

毎年4協会の中から本整合化活動の功労者が選出・表彰されることになっており、このたびIHC対応WG長として本活動に長年携わっておられました元エア・ウォーターの鷲頭　隆氏が受賞することになりました。本活動に対するJIMGAの貢献が国際的に認められたことを示すもので、この場をお借りし、お喜び申し上げます。

去る8月3～4日には、基準整合化のIHCプロジェクト候補他を検討する第29回IHC会議が開催されました。現在23件のプロジェクトが進捗していますので、新たなプロジェクトの提案はありませんでした。今回は基準整合化の可否をより客観的に明確に評価・点数化できる判定基準を検討し採用することとなりました。今後は皆様にプロジェクト提案候補を評価頂き、その評価結果をIHC会議に報告することとなります。

尚、現在IHC国際会議において約1年検討していました、IHC業務の進行状況管理システムを導入する方向です。

規制改革　WG

規制改革ＷＧでは会員各社からの要望を推進すべく、課題推進プロジェクトを組織し集中的な活動を実施しており、以下の規制改革要望を提出或いは継続検討しています。

(1)『国民の声』として内閣府へ要望する候補

① 高圧ガス設備又は貯蔵設備に設けられ圧力計の比較検査に用いる圧力計の検定方法

② 自動車搭載用液化天然ガス燃料タンクの動試験規格規制の改訂

(2) 管轄官庁へ直接の要望を検討する候補

③　継目無し容器の充てん前音響検査
④　超低温容器の容器再検査方法の見直し：付属品再検査における気密試験及び性能試験の試験力ガスの変更
⑤　超低温容器の容器再検査方法の見直し：内容積1000㍑超の容器断熱性能試験に真空度測定による方法の追加
⑥　シラン毒性に関する検討（特殊ガス技術WGとの協調）

(3) 新規要望

⑦　材料試験における曲げ試験の表裏区別の緩和
⑧　超低温容器の膨張測定試験の廃止
⑨　コールド・ストレッチCE等の例示基準化
⑩　超低温容器用材料にSUS304N2の採用

特殊高圧ガスの充てん量見直しについては、産業技術総合研究所での計算結果を踏まえて3種類のガス（セレン化水素、ホスフィン：増量、三フッ化窒素：減量）に関する充てん量見直し案が経済産業省（METI）に提出されました。これを基にMETIで検討された上で、6月28日にパブリックコメントが出されました。詳細は『保税扱いの高圧ガス容器、高圧ガスの輸出専用の高圧ガス容器等の特別充塡について（内規）の制定について』を参照ください。

医療用酸素、窒素および二酸化炭素の純度試験における試験方法の見直しについては法制化されました。

フレキシブルホースの保安検査要領については高圧ガス保安協会（KHK）保安検査規準見直し委員会、規格委員会、技術委員会を経てMETIに提出された案に基いて、KHK-Sが再度パブリックコメントに出されました。

現在、KHKにて最終確認が行われており、本年度下期には告示となる予定です。

窒素指定設備老朽化対応については、KHK主催の「認定指定設備の変更に工事に係る規制のあり方に関する委員会」（JIMGAからも2名の委員が参加）の提案がMETIに提出され、現在METIにてパブリックコメント前の検討中です。

GHSの『不安定化学物質』の動向については欧米との情報交換を継続しています。特にヨーロッパではGHSが法制化され発効されました。現在はEIGAが中心となって産業ガスのREACHに関する対応も含め進めています。KHKの推薦を受け全溶連とも連携して発刊しましたCE日常巡回点検表の記載要領については、JIMGAのセミナー等で周知活動を継続実施中です。また超低温機器協会と協調してJIMGA基準としての改訂を進める予定です。本要領書はJIMGAのホームページに全文を掲載し会員各社が直接ダウンロード出来ますのでご活用ください。

規制改革要望は課題推進プロジェクトが中心となって毎年規制改革要望を行い、一定の成果を収めています。要望の内容によって、日本経団連経由で内閣府に提出される要望（国民の声）、また所管官庁やKHKと直接折衝するべきものと、課題毎に効果的な対応を実行します。

所管官庁と直接折衝する場合には、資料を含め十分な準備が必要となりますので会員各社のご協力をお願いします。

地域本部からのお知らせ

北海道地域本部

総　会：平成23年度定時総会（産業ガス部門）

日　時：平成23年５月20日（金）16：20～ 17：10

会　場：札幌全日空ホテル　３階『孔雀の間』

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告承認の件

第２号議案　平成22年度収支決算報告承認の件

第３号議案　平成23年度事業計画（案）承認の件

第４号議案　平成23年度収支予算（案）承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認されました。

報告事項

平成22年度旧組織決算

本部出席役員

副　会　長　髙松　久雄

常務執行役員　松阪　一紀

常務執行役員　加藤　尚嗣

山口本部長代行挨拶

本日はお忙しい中、本総会にご出席賜りありがとうございます。藤田本部長が欠席のため、本日、本部長代行を務めさせて頂きます山口です。よろしくお願いいたします。

まず始めに３月11日に三陸沖を震源とした国内最大級のＭ９の東日本大震災が起き、この地震による津波で甚大な被害が発生しました。この震災にて起因した福島第一原発事故は、現在、避難生活を余議なくされている方が約10万人と、余震が減ってきているものの、まだまだ予断を許さない事態が続いております。会員各社は､東北地域を中心に生産設備、事務所等に大きな被害を受けていると聞いております。会員各社のご心中、ご苦労をお察し申し上げ、心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の１日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

昨年１月にJIMGA本部に公正取引委員会の立ち入り検査が実施され、JIMGA本部として、新たに独占禁止法遵守を意識した会議ルールの制定、及び透明性を高めた組織へ改編されました。北海道地域本部におきましても、この方針に従い、北海道の特性と本部指針を総合的に加味し組織改編しました。今年度、北海道地域本部の産業ガス部門としては、『充てん工場の地震対策指針』を中心とした保安セミナーの開催を予定しております。この度、東日本大震災が発生しましたが、国内においては今後も大規模地震の発生は起こりえるところであり、ガスの安定供給を確保するためにも、この指針を充分活用することが必要であります。医療ガス部門においては、病院従事者対象の「医療ガス保安講習会（草の根）」の開催と、昨年から引続き各会員の管理者対象の「卸売販売業講習会」の開催の予定をしております。MGR関係では今年度から「MGR更新時講習会」を各地域本部で開催する予定となります。

今後、更なる活動を通して品質の改善向上、関連法令の周知徹底等に努めて、更に当協会が責任ある団体として、安全かつ適切な産業・医療の提供に寄与する団体であることを社会的に広く周知し、業界の社会的評価を高める必要があると考えております。

いずれにしても、今後とも皆様方の意見を十分お聞きしながら、業界、また地域の発展のために取組んでまいりたいと思いますので、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

平成23年度役員

本 部 長　藤原　慶夫　エア・ウォーター㈱

幹　　事　佃　　淳一　日北酸素㈱

幹　　事　諏訪　俊雄　函館酸素㈱

幹　　事　中川　　学　日本エア・リキード㈱

幹　　事　柴田　　宏　東邦アセチレン㈱

幹　　事　片岡　伸行　エア・ウォーター㈱

会計監事　矢野根　巖　日北酸素㈱

山口本部長代行挨拶

北海道地域本部総会風景

鉄鋼、化学、電子、食品、医療、エネルーギー等
産業界のあらゆる分野に貢献する超低温機器メーカー

エーテック株式会社

製造品目
●液化ガス貯槽(コールド・エバポレーター)
●液化ガスタンクローリー
●移動式大型液化ガスコンテナ
●可搬式小型低温容器
●真空断熱配管
●航空機用機械器具
●宇宙関連ガス供給システム

会社概要
●商　号　エーテック株式会社
●設　立　1986年10月
●資本金　4,000万円
●株　主　岩谷産業㈱ 90%
岩谷瓦斯㈱ 6%
日本エア・リキード㈱ 4%

2011年7月より、日本エア・リキード株式会社の低温機器販売部門と統合し、産業ガス及びエネルギー分野での有力企業である岩谷産業グループの一員としてスタートしました。

エーテック株式会社
URL.http://www.a-teckk.co.jp

本社・明石製作所　〒674-0093 兵庫県明石市二見町南二見20番地1 TEL.(078)941-8822 FAX.(078)949-2029
東京　〒105-8458 東京都港区西新橋3-21-8 TEL.(03)5405-5820 FAX.(03)5405-5705
名古屋　〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-23-20 TEL.(052)961-5782 FAX.(052)961-7018
大阪　〒541-0053 大阪市中央区本町3-6-4 TEL.(06)7637-3133 FAX.(06)7637-3388

エーテック株式会社は、鉄鋼、電子、食品、医療、エネルギー等産業界のあらゆる分野で幅広く使われている酸素、窒素、アルゴン、水素、炭酸ガス等の産業ガスを、安定した状態で安全に貯蔵・輸送するための超低温貯槽・タンクローリー等の機器を開発設計・製作しています。

特に、日本における超低温機器のリーディングメーカーとして、品質と信頼性において顧客満足度の高い製品を提供することを第一とし、技術開発と生産に取り組んでいます。

東北地域本部

幹事会：平成23年度合同幹事会
（JIMGA東北地域本部産業ガス部門、医療ガス部門、東北高圧ガス容器管理委員会）
日　時：平成23年5月19日（木）12：30～15：00
会　場：ホテル白萩

議案審議A

産業第１号議案　平成22年度事業報告および収支決算の承認を求める件
産業第２号議案　平成23年度事業計画および収支予算（案）の承認を求める件
産業第３号議案　役員の一部選退任の承認を求める件

以上の議案審議の結果、提案通り承認された。これにより、平成23年７月１日付けで、JIMGA東北地域本部長（兼東北高圧ガス容器管理委員会会長）に、山口美紀生氏が就任することになった。

議案審議B

産業第１号議案
平成23年度年会費減免の件
以上の議案審議の結果、提案通り承認された。

山口美紀生
新地域本部長

本部出席役員

副　会　長　中井　喜三
専務理事　豊澤　幸平
常務執行役員　加藤　尚嗣

平成23年度役員

本 部 長　山口美紀生　大陽日酸㈱
副本部長　大場　正仁　山形酸素㈱
副本部長　山本　博昭　エア・ウォーター㈱
副本部長　久保田正夫　東邦アセチレン㈱
幹　　事　丸山　　信　日本エア・リキード㈱
幹　　事　今福　　實　第一開明㈱
幹　　事　廣瀬　俊明　高圧ガス工業㈱
幹　　事　相場　栄利　㈱相場商店
幹　　事　伊達　久顕　上毛天然瓦斯工業㈱
会計監事　熊谷　孝嘉　岩手工業㈱
会計監事　山先　　聡　日本液炭㈱

東北地域本部の現況報告

３月11日の東日本大震災では、被災当初より全国のJIMGA会員の皆様から医療用酸素ガス（バラ瓶）や液化酸素の供給等のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。東北地域本部の会員は、大きな被害を受けました。管内に７つある液化ガスプラントのうち、３工場は津波の直撃で甚大な被害を受け、１工場は地震により損傷し、いずれも停止しました。また、一般ガス充てん工場も９つの工場は、津波の直撃で甚大な被害を受けました。被災後 数ヶ月が経過し、液化ガスプラントはすべて復旧し、充てん所もほとんどの工場が早い段階から復旧し、全復旧まであともう一歩のところまできています。

ところが、福島原発事故の被害は収束の目途がたたず、震災・津波の被災地域の復旧・復興事業は、地元が期待する程には進んでいないように思われます。

現在JIMGA東北では本部の協力を得て、津波により流出した所有者不明容器の廃棄処理を進めています。被災直後から各会員にて自主的に回収をしてきた容器やガレキ一時集積所に集まった容器を1日も早く安全に廃棄し、高圧ガスによる二次災害が生じないよう取組んで行きます。全国の会員の皆様には、今後ともご指導とご協力を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

津波の直撃後、鋼鉄製のコンテナが多数流出撮影

関東地域本部

総　会：平成23年度産業ガス部門定時総会

日　時：平成23年５月19日（木）16：00～ 16：30

会　場：東京　ホテルJALシティ田町「瑞祥の間」

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告の承認を求める件

第２号議案　平成22年度収支報告の承認を求める件

第３号議案　平成23年度事業計画（案）の承認を求める件

第４号議案　平成23年度収支予算の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

平峯信一郎本部長は、定時総会終了後、関東地域本部代表地域本部長に就任

本部出席役員

常務執行役員　松阪　一紀

（定時総会終了後の医療ガス部門との合同懇親会には豊田会長と引続き松阪常務執行役員にご臨席頂きました。）

平峯本部長挨拶

初めに、東日本大震災で被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。JIMGA会員の皆様の中でも甚大な被害にあわれ、被災されている方がいらっしゃいます。JIMGA本部では、今回の震災により、被災された会員の皆様に対して平成23年度の会費を減免する措置を検討しています。当地域本部でも産業ガス部門で被災の報告がありました会員のうち、６社の会員の皆様に会費を減免するようにJIMGA本部に要請しています。被災された会員の皆様へ一日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

昨年１月20日の公正取引委員会の立ち入り検査を受けてから、当地域本部産業ガス部門においても組織の見直しがあり、平成22年度は、新組織のもと、会議開催にあたっては、「JIMGA会議開催ルール」を遵守して運営してきました。また、複数の営業担当者が出席する会議では、顧問弁護士にご臨席願い、各委員が活動に参加しやすいように留意してきました。このあとでも報告されると思いますが、平成22年度は、各技術グループが計4回のセミナー・講習会を開催しました。延べ250名の方々に受講して頂きました。各部会・グループの定例会での討議を通じて、技術担当者を中心に構成された組織が、スムーズにスタートできたものと自負しています。３月に予定していた「容器RFタグ説明会」は、震災の影響で５月25日に延期となりましたが、日本教育会館にて開催いたします。会員皆様方の多数のご参加をお待ちしています。本年度も「安全・保安の確保」を主たる活動目標に掲げて、セミナー・講習会・説明会を積極的に開催し、所属会員・顧客・消費者に知識習得・向上の場を提供させて頂きます。

また、高圧ガス関連の事故がひとつでも少なくなるように、尚一層の努力を続ける所存です。苦しい局面ではありますが、明るく活動して行きますので、皆様のご支援、ご協力を、宜しくお願い申し上げます。（平峯本部長は、定時総会終了後、関東地域本部代表地域本部長に就任しました。）

平成23年度役員

本 部 長　平峯信一郎　大陽日酸㈱（本部評議員）

副本部長　岡﨑　　隆　小池酸素工業㈱

副本部長　柳川　隆則　㈱宝山産業（本部評議員）

副本部長　村田　文史　日本液炭㈱

幹　　事　本島　章夫　岩谷産業㈱

幹　　事　神野　耕一　高圧ガス工業㈱

幹　　事　寺田　和廣　エア・ウォーター炭酸㈱

幹　　事　野平　忠彦　エア・ウォーター・ハイドロ㈱

幹　　事　村瀬　直良　㈱鈴木商館

代表監事　山本　恭弘　岩谷瓦斯㈱

監　　事　白坏　隆文　日本エア・リキード㈱

懇親会での豊田会長挨拶

懇親会での平峯本部長挨拶

関東地域本部総会風景

東海地域本部

総　会：平成23年東海地域本部定時総会
日　時：平成23年５月10日（火）16：00～17：20
会　場：ホテル キャッスルプラザ

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告の承認を求める件
第２号議案　平成22年度収支決算の承認を求める件
第３号議案　平成23年度事業計画の承認を求める件
第４号議案　平成23年度予算の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

平成23年度東海地域本部役員の件

本部出席役員

代 表 監 事　大井　敏夫
常 務 理 事　篠塚　賢藏
常務執行役員　松阪　一紀

米田代表本部長挨拶

３月11日の東日本大震災及び津波の被害によって、東北地方から関東地方にかけて未曽有の被害を受けられた皆様には、心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の皆様には安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

今回の震災により、当協会では、政府からの医療用酸素ガスの緊急支援要請への対応、電力不足の中で医療用酸素や保安用窒素の製造並びに供給維持への対応、被災地の二次災害の防止措置など多くの懸案事項に対処しました。

しかし、高圧ガスに関する事故は毎年増加を続けており、平成22年も920件の事故が発生しました。事故の中でも盗難の件数が多く、この事故を減少させるためには、高圧ガスの消費後は速やかに、かつ確実に容器の返却して頂くことが最重要です。容器に関する事故撲滅のため、容器管理委員会を中心にして作成しました東海三県の「高圧ガス容器保安対策指針」の周知を本年度も継続させて頂きます。高圧ガス容器を販売される企業は、「容器貸借契約書」を締結し、容器の貸借条件を確認することが重要です。「高圧ガス容器保安対策指針」と「容器契約化の推進」によって、高圧ガス容器の事故はかなり減らせるものと期待しています。

東海三県の「高圧ガス容器保安対策指針」や「容器貸借契約書」を推進するためには、容器管理が極めて重要となります。当協会では、この容器管理の一方法としてRFタグの実用運用実験を進めており、幅広く普及されることを期待しています。

高圧ガスに携わる者の責務に、「保安の確保」があります。保安を確保するための「講習会」を本部との連携のもとに実施して行きたいと考えています。医療ガスについては、在宅酸素の火災事故は看過することができませんので、病院の医療ガスを取扱っています方々を対象に、「医療ガス保安講習会」を実施することになっており、本年度は静岡県にて開催いたします。

本日の地域総会では、活発なご意見を頂きながら、議案審議を進めたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

平成23年度役員

代表地域本部長

米田　勝明　エア・ウォーター㈱

産業ガス部門

本 部 長　米田　勝明　エア・ウォーター㈱
副本部長　早川　宏一　竹中高圧工業㈱
副本部長　石原　　明　日本液炭㈱
副本部長　飯田　哲郎　名古屋酸素㈱
幹　　事　坂本　雅博　大陽日酸㈱

幹　　事	鋤柄　喜彦	㈾大日本アガ瓦斯製造所
幹　　事	勝見　欣司	昭和炭酸㈱
幹　　事	竹本　孝夫	東亞テクノガス㈱
代表会計監事	長妻　瑞夫	日本エア・リキード㈱
会 計 監 事	諏訪　高敏	豊田ガスセンター㈱

総会での米田本部長挨拶

総会議案審議

懇親会での大井代表監事挨拶

北陸地域本部

総　　会：平成23年度北陸定時総会
日　　時：平成23年度５月24日（火）11：00～13：00
会　　場：ANAクラウンプラザ金沢

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告
第２号議案　平成22年度収支決算報告
第３号議案　平成23年度活動及び予算案

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

本部出席役員

副　会　長　中川　　詔
執 行 役 員　和田　　彰
常務執行役員　根本　睦雄

小倉本部長挨拶

はじめに、３月11日の東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。16年前の阪神大震災では復興に８年を要し、被害総額が４兆円になったと聞いております。この度の東日本大震災は復興に10年以上の期間が必要であろうし、金額も10兆円を超えるのではないかと懸念しております。その様な中でJIMGA豊田会長は経済産業省とKHKへの柔軟な対応等や働きかけを行われていると聞いております。また、本地域も本部からの要請に対し、容器回収、調整器供給の協力をいたしました。

当地域の経済状況も、自動車業界のみならず、各業界にて震災の影響が表れております。しかし、震災を教訓にして安定供給、保安の確保に取組む必要があると思っております。まだ高圧ガスに関する東日本大震災の被害額については発表されておりませんが、相当大きな数字になるものと思われます。これは別として、高圧ガスに関する昨年１年間の事故件数は920件あり、前年比11％増となっております。そのうち、災害事故は380件　前年比26％増、喪失・盗難事故は540件　前年比３％増となっております。喪失・盗難事故ということは商慣習の改善、容器管理の徹底、組織的には溶材組合との連携による容器回収、RFタグ等を進めて行かなければならないと思っております。また医療に目をむけますとMGR制度の拡大、認知度アップの推進。平成24年度の診療報酬改訂に向け、会員各位からの要望、アンケート等をもとに、業界の実態を踏まえた要望書の作成、厚生労働省への折衝を行って参ります。改正薬事法関連では、特例販売業から卸売販売業への移行にともなう、販売相手先に関する考え方については、平成23年３月31日付で厚生労働省医薬食品局総務課より事務連絡が発せられており、当協会ホームページでは具体的内容を掲載しておりますので、まだ確認されていない方は、ご参照お願いいたします。

また、今回の大震災で、東北地域本部においては、県薬務課と締結していた「災害時防災協定」により、「効果的で迅速な対応が行えた」との報告があり、当地域本部においても重要課題と位置付けなければならないと感じております。

産業部門、医療部門共々、平成23年度の事業を充実したものにしたいと思っております。ご協力のほどをお願いいたします。

平成23年度役員

本 部 長　小倉　善興　　宇野酸素㈱
副本部長　板倉　久郎　　北酸高圧瓦斯㈱
幹　　事　西尾　和久　　日本エア・リキード㈱
幹　　事　丹羽　信嗣　　北越アセチレン㈱
幹　　事　伊勢呂庄太郎　日本液炭㈱
会計監事　綿引　秀幸　　大陽日酸㈱

小倉本部長挨拶

定時総会風景

近畿地域本部

1．幹事会

幹事会：平成22年度第二回幹事会

日　時：平成23年３月７日(月)11：00～12：30

会　場：グリル小松屋　2階

次　第：平成22年度収支、予算承認、主要行事予定

出席者：８名

2．幹事会

幹事会：平成23年度第一回幹事会

日　時：平成23年４月20日(水)11：00～13：00

会　場：大阪府商工会館　4F　JIMGA会議室

次　第：平成23年度総会議案書承認、表彰関係承認他

出席者：７名

3．定時総会

総　会：平成23年度産業ガス部門

日　時：平成23年５月16日(月)15：00～15：55

会　場：メルパルク大阪　４階　ラマージュの間

本部出席役員

副　会　長　牧野　明次

常務執行役員　松阪　一紀

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告承認の件

第２号議案　平成22年度経常費収支決算報告承認の件

第３号議案　退職に伴う幹事交替変更承認の件

第４号議案　技術・保全部会　CEグループ解散承認の件

第５号議案　産業ガス部門・医療ガス部門統一総会への変更承認の件

第６号議案　平成23年度事業計画(案)承認の件

第７号議案　平成23年度経常費収支予算（案）承認の件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

その他報告事項

(1) 会員動向

(2) 表彰関係

(3) 今後の主な行事予定

(4) 本部よりの連絡

懇親会

松原本部長挨拶

御高尚の如く、本年３月11日に未曽有の大震災が東日本を襲い、人的災害もさる事ながら、テレビ・新聞で知る、農業・漁業の壊滅的な状況に唖然とさせられたものでした。ひっきり無しに起こる余震、また福島原発事故に見る状況に深い不安を覚えたものでございます。

近畿地域本部といたしましては、医療ガス部門で現地の支援を行いましたが、少しでもお役に立てた事に、安堵している次第です。

今後もいろいろな影響が出てくるかとは思いますが、出来る事を少しずつ、着実に、粛々とこなして行く所存でございますので、関係諸団体の皆様にあっては、更なるご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

さて、高圧ガス保安法関係の事故の件でありますが、依然増加基調であり、2010年度データによりますと前年比約11%増の920件となっていて、11年連続の増加であり、内、災害事故は前年比26%増の380件を示し、喪失・盗難は500件超の高止まりとなっております。

医療ガス部門に目を転じましても、在宅酸素療法での火災事故が大きな問題となっているのは、ご存じの事と思います。大阪におきましても、新年早々の火災事故があったばかりです。

この様な時期に、行政を始め、関係諸団体よりの大きな期待を頂く事に対し、その責務の重大さを痛

感している所です。

産業ガス・医療ガス部門とも、多くの課題を抱えておりますが、近畿地域本部の活動の理念であります、「自主保安の確立」・「コンプライアンスの徹底」・「長期停滞容器の回収」につきまして、今後とも一層の努力を行い、会員皆様のご尽力のもと、是非実現する様、力を注ぐ所存であります。また、いろいろな面で、非常に厳しい環境ではありますが、皆様方と一致団結して、着実に歩みを進めて参りたいと考えております。引続きのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

牧野副会長挨拶（要旨）

はじめに、本年３月の東日本大震災の事に触れられ、会員各社の被害・人的被害及び福島原発による避難についてのお見舞いを申し上げられた後、JIMGAの震災直後の動きについて説明を述べられた。

その後、JIMGAの課題（保安の強化・RFタグ・環境問題・防災協定・草の根講習会等々）について進捗状況を説明し、最後に業界一致団結して更なる地位の向上を目指したいと締め括られた。

丸山課長ご挨拶（要旨）

（経済産業省原子力安全・保安院　中部近畿産業保安監督部　近畿支部保安課）

日頃の原子力・保安院への協力に対する御礼とJIMGA近畿地域本部の総会が無事終了した事についてのお慶びを述べられた。その後、高圧ガスの意義について話され、特に事故の増加について懸念を表された。またJIMGA近畿のセミナー・容器管理等々の普及活動について感謝され、引続き公共の安全確保に万全を期したいと述べられた。

今回の東日本大震災における協力に対し深く感謝の意を述べられ､今後のいろいろな要請に対しても、よろしくご助力を頂きたいとお願いされ、事故の無い様、ご注意を頂く様にと締め括られた。

高山事務局長乾杯ご発声（高圧ガス保安協会近畿支部）

今般の大震災をたとえとして、先人の教えまた防災訓練の重要性について述べられ、乾杯のご発声とされた。

宮﨑理事長中締ご挨拶（大阪高圧ガス熔材協同組合）

大震災の件について憂いを述べられ、先行きの不安に対して、大いに心配をされた後、総会が無事に終了し、ここに皆様が一堂に会し、お祝いの席を持てた事について感謝の意を表された。

また、シリンダービジネスに多くの問題点が山積みしている事を述べられ、まず保安について皆様が考えて行く協会に育てたいと抱負を述べられ、安心して使用され・感謝してもらえるガス業界に発展させたいと締め括られ中締めの挨拶とされた。

平成23年度役員

本 部 長	松原　幸男	エア・ウォーター㈱
副本部長	難波　太郎	日本エア・リキード㈱
副本部長	吉満　誠二	㈱関西ガスファースト
副本部長	今村　信夫	大陽日酸㈱
幹　　事	田井中秀喜	岩谷産業㈱
幹　　事	仲　　進	大陽日酸㈱
幹　　事	福田　　正	㈱リキッドガス
会計監事	大久保義孝	小池酸素工業㈱
会計監事	林　　功	協和ガス㈱

４．近畿高圧ガス容器管理委員会平成23年度総会

日　時：平成23年６月27日（月）14：00～ 14：50

会　場：大阪府商工会館７Ｆ　第二会議室

出席者：議決権総数307　出席数62人　委任状数 174

来　賓

経済産業省原子力安全・保安院　中部近畿産業保安監督部　近畿支部保安課　　課長　丸山　　力殿

近畿支部保安課　　課長補佐　南竹　二郎殿

大阪府政策企画部危機管理室保安対策課

課長補佐　望月　京司殿

保安対策室　副主査　羽口　剛殿
兵庫県産業労働部産業振興局産業保安課
係長　手木　雅一殿
奈良県産業・雇用振興部地域産業課
主事　須貝　縦殿
高圧ガス保安協会近畿支部
事務局長　高山　武久殿
大阪府高圧ガス安全協会
事務局長　和田　昌文殿

安田会長挨拶（要旨）

常日頃の会員の皆様による当委員会への運営に対するご協力・ご尽力に対し謝辞を述べられた。

また、本日の総会出席への御礼を言われた後、東日本大震災で被災された方々へのお見舞い申し上げ、会員の皆様の迅速な対応に敬意を表された。また本日の総会内容の中で、容器管理指針及びマニュアルの作成について触れられ、マニュアル未制定の県におきましても各々の考え方はあると思われるが、当委員会としては少しでもお役に立てる様、活動して行きたいと話された。次に会員数に触れられ、減少方向に歯止めをかけ増員を図りいっしょに目をみはる活動へとつなげて行きたいと述べられ、会員の皆様へのご協力をお願いし挨拶とされた。

近畿地域本部総会での松原本部長挨拶

近畿地域本部総会風景

総会懇親会風景

中国地域本部

1．定時総会

日　時：平成23年５月24日(火)15：00～15：45

会　場：広島ガーデンパレス『白鳥の間』

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

第２号議案　平成23年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認を求める件

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された。

報告事項

1）会員の動静について、指定代表者の交代３社の報告があった。

2）JIMGA発行のメールマガジン（年６回程度発行のJIMGAnews）を指定代表者及び技術委員に届けたいので中国地域本部へアドレスの登録をして下さいとの案内があった。

本部出席役員

副　会　長　小池　哲夫

常 務 理 事　篠塚　賢蔵

常務執行役員　松阪　一紀

阿南本部長挨拶（要旨）

冒頭で、産業ガス部門の会員の皆様の当地域本部の運営に対する日頃のご協力とご支援の御礼と、本総会での議案審議を円滑に進めて戴きたい旨の言葉を述べられた。更に今回の東日本大震災の被災地の一日も早い復興を心から願っている。「日本という国は、15年前の阪神淡路大震災といい、どこにいても大きな地震は必ず来るものである事を念頭において物事を進めて行かないといけない。」以上の主旨の挨拶があった。

小池副会長挨拶

東日本大震災にて、当協会会員の会社においても人的・物的被害があり、誠に残念なことです。また福島第一原発の影響で避難を余議なくされている会員の方もいらっしゃり、改めてお見舞いを申し上げます。

JIMGAでは産業ガス、医療ガスとも本部と各地域本部が連携し、被災地への情報の収集や発信、関係省庁との連絡や要請を行ってきました。特に医療用酸素ガスについては、全国会員の皆様には、ご協力を得て被災地へ緊急輸送を行いました。御助力を戴いた関係者各位に対しまして、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

また、業界としましては夏場の電力不足対策が急務となっております。節電へ最大限の協力を表明しておりますが、電力不足対策は、自主行動計画の対象となる会員と密な連携を取りながら、安定供給を前提とした対策に努めて参ります。

一方足元では「保安の強化」について、全国でセミナーの開催に積極的に取組みます。またRFタグ普及への取組みは本年度を「本格導入元年」と位置づけ2015年までに約310万本への装着を目指します。医療ガス部門においては、自治体と各地域本部が、締結している防災協定を更に推進して行きます。最後になりますが、今回の大震災で我々の扱う『高圧ガス』は生産用・医療用はもちろんのこと、災害時においても必要不可欠で最重要な物資であることを改めて実感したところであります。JIMGAは本年度も様々な課題に取組み、透明性の高い運営を行って行く所存であります。

平成23年度役員

本 部 長　阿南　泰州　日本エア・リキード㈱

副本部長　藤井　基博　藤井商事㈱

副本部長　並河　　勉　山陰酸素工業㈱

副本部長　永江　　裕　大陽日酸㈱
副本部長　松永　　健　高圧ガス工業㈱
幹　　事　田中　良介　岩谷産業㈱
幹　　事　都築　康彦　エア・ウォーター㈱
幹　　事　松本　久昭　岡山エア・ウォーター㈱
幹　　事　國廣　　憲　中国アセチレン㈱
幹　　事　山中　昭一　エア・ウォーター炭酸㈱
会計監事　川﨑　兼二　岩谷瓦斯㈱
会計監事　小林　通匡　福興酸素㈱

阿南本部長挨拶

小池副会長挨拶

四国地域本部

1．定時総会

日　　時：平成23年５月12日(木)13：00～ 14：10

会　　場：オークラホテル丸亀

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告について承認を求める件

第２号議案　平成22年度収支決算について承認を求める件

収支決算の会計監査報告通り異議なく承認された。

第３号議案　平成23年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について承認を求める件

第３号議案は、期首現金・預金高、期末現金・預金高を収支予算（案）に付け加えることで原案通り承認され事業計画（案）・収支予算（案）の（案）を１字削除して読み替えるものとした。

以上の議案を審議の結果、いずれも提案通り承認された

報告事項

○平成22年度協会指定代表者

（新任）四国液酸株式会社　谷野　正幸

（退任）四国液酸株式会社　海老澤憲一郎

本部出席役員

副 会 長　鏑木　　正

専務理事　豊澤　幸平

野村茂本部長挨拶

東日本大震災におきまして、犠牲になられた方々やご遺族の皆様方に対して　深い哀悼の意をささげますと共に、心よりお見舞い申し上げます。

また、今回の大震災に対しましては、医療ガス部門を中心として会員各位の多大なご支援、ご協力を賜わり厚く御礼を申し上げますと共に、JIMGAを中心とした医療ガスの安定供給体制の迅速な対応と構築、リーダーシップに対し深く敬意を表す次第です。

今後は、この大震災を教訓として東南海・南海大地震に備えて、四国地域本部としてもどのような対応を取るべきか、早急に検討を始めることが必要となっております。

さて、我が国の経済は、昨年後半の急激な円高・株安による足踏み状態から、アジア・米国経済の回復で持ち直しの動きがみられています。しかしながら、四国地域を取り巻く経済環境は依然として厳しく、人口減少に歯止めがかからない状態です。市場規模は縮小の一途にあり、更に原油価格を始めとした資源価格の高騰と東日本大震災の影響も重なり、一層厳しさを増しているのが実情であります。一方、我々高圧ガス事業者にとりまして「保安の確保」「事故の撲滅」は事業を継続し発展させて行くためには、欠くことのできない大きな条件でもあります。その対応策として「不明容器・放置容器の撲滅」の切り札としたJIMGAで取組む「RFタグ」がございますが、この「RFタグ」には容器の流通過程における移動履歴もインプットされるなど従来のバーコードに比べて数多くのメリットがあります。現在、全国的に実証試験を経て、実用段階への移行が始まっており、会員各位におかれましても、導入促進に向けまして、尚一層のご協力をお願い申し上げます。

鏑木副会長挨拶

高圧ガス業界は2010年には「公正取引委員会の立ち入り検査」に揺れ、2011年３月は文字通り「東日本大震災」に揺れました。

この東日本大震災における会員各位の被害は、生産設備・輸送車両の流出・損壊のみならず、人的被害も確認されており、震災被害を受けられた皆さんに心よりお見舞い申し上げます。

JIMGAでは地震発生の翌日に政府要請に基づき、

全国の会員各位に多大なるご協力を得て被災地に医療用酸素ガスの緊急輸送を行いました。ご協力頂きました会員各位には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

また、福島第一原発事故に起因する「夏場の電力不足への対応」が急務となっております。特に東京、東北電力管内では「夏場の電力確保」が大きな課題となっており、今後は対象会員と連携を取りながら産業・医療ガスの安定供給を前提とした対策に努めてまいります。

一方、JIMGAの最重要課題である「保安の強化」について、全国地域本部においてセミナーを開催し、「保安の確保・事故撲滅」に向けた啓発活動に取組んでまいります。この一環としての「RFタグ普及の活動」ですが、まさに「実運用実験」から「RFタグ導入元年」となり、2015年度までに310万本の装着を目指しているところであります。環境問題についての、「地球温暖化対策税法案（仮）」の国会審議は今回の震災により、ストップした状態ですが、今後の動向を注視し、高圧ガス業界の立場を強く訴えて参ります。

更に医療ガス部門においては、現在21の自治体と各地域本部が締結をしている「防災協定」を更に全国的な展開で進め、緊急時に備えて参ります。また、「草の根講習会」により「保安の確保」に努め、更に「MGRライセンス取得」を推進することにより、関係当局の信頼を高め、尚かつ「事故撲滅」に努める所存です。

高圧ガスは災害時において、復興に向けた資材の生産にとっても重要な物資であることをこの震災で改めて実感した次第です。

災害時における生産・物流を担う業界として地位向上を目指し、種々の課題に取組む所存ですので会員各位の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成23年度役員

本 部 長	野村　　茂	土佐酸素㈱
副本部長	大橋　正明	四国アセチレン工業㈱
副本部長	太田　洋一	日本エア・リキード㈱
幹　　事	長谷　眞史	四国岩谷産業㈱
幹　　事	笹岡　重続	四国エア・ウォーター㈱
幹　　事	今川　雅博	四国大陽日酸㈱
幹　　事	新田　　茂	大陽日酸㈱
幹　　事	佐々木康二	高松帝酸㈱
会計監事	田中　智博	エア・ウォーター炭酸㈱

四国地域本部定時総会

九州地域本部

1．定時総会

総　　会：平成23年度定時総会（産業ガス部門、医療ガス部門の統一総会）

日　　時：平成23年５月18日(水)15：00～16：10

会　　場：博多都ホテル

議案審議

第１号議案　平成22年度事業報告及び収支報告の件

Ⅰ．九州地域本部組織の状況

Ⅱ．平成22年度事業報告

Ⅲ．平成22年度収支報告

第２号議案　平成23年度事業計画（案）及び予算（案）の件

Ⅰ．平成23年度事業計画（案）

Ⅱ．平成23年度予算（案）

議案は全て提案通りに承認され閉会した､総会後、同会場において懇親会を開催した。

本部出席役員

副　会　長　松枝　寛祐

常 務 理 事　篠塚　賢藏

常務執行役員　松阪　一紀

上原代表地域本部長挨拶（要旨）

東日本大震災で被害に遭われた、被災地の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。九州地域本部会員各位におかれましては政府要請に基づく医療用酸素ガス等の供給応援の準備についてご協力頂き誠にありがとうございました。震災発生から２ヶ月が過ぎましたが、福島第一原発は依然として収束の目処がつかず､今後の日本全体のエネルギー事情の悪化、そして経済への影響が懸念される状況です。

公正取引委員会の正式な決定通知が出ていない状況でありますが、昨年１月にJIMGAも含めてメーカー各社への立入検査が行われ、私もメーカーの一員として真摯に受け止めお詫び申し上げます。

昨年の全国の“災害”高圧ガス事故は、一昨年の減少傾向から大きく増加に転じて380件と27%増となりました。その中でも設備老朽化に起因する“劣化・腐食等”が172件で45%を占めています。九州管内の災害事故件数は全国傾向と同じながら、23件（2009年）→38件（2010年）と65%も増えました。38件の内“噴出漏えい”が30件で８割と率が高い状況となっています。一方、喪失･盗難に関しては、同じく全国では年々増加傾向にあり昨年は540件でしたが、九州管内では69件（2009年）→55件（2010年）と減少傾向とは言え、“災害事故30件”の約２倍の件数となっています。

最後に事故撲滅のためには、かねてから言われている自主保安体制の確立、つまり高圧ガスに携わる一人ひとりが自覚を持って“予防保全”を行う事が重要であります。九州地域本部としては①保安講習会開催・事業所保安点検等の保安活動の実施②医療部門においては草の根講習会の継続及びMGR制度の推進③容器管理のためのRFタグの普及推進等の活動を行い事故撲滅、以上を取組んでまいります。

今年度は期初から芳しくないスタートとなりましたが、今が底の状況で、これから良い方向に向う事を期待して頑張って行きたいと思います。

平成23年度産業ガス部門役員

本 部 長	上原　正弘	大陽日酸㈱
副本部長	阿南　泰州	日本エア・リキード㈱
副本部長	山岡　真木	エア・ウオーター㈱
幹　　事	宮嶋　寛幸	福豊帝酸㈱
	岩永　友孝	岩谷産業㈱
	岡田　一夫	福岡酸素㈱
	三浦正太郎	西日本高圧瓦斯㈱
	磯田　光功	高圧ガス工業㈱
	江藤　伸一	江藤酸素㈱
	平石　　誠	日本液炭㈱
	長家　　茂	福岡酸素㈱
	山崎　俊隆	㈱武田商事
	今川　敬志	内村酸素㈱
	山本　和久	江藤酸素㈱
	岩切　充弘	宮崎酸素㈱
	内村　武志	サツマ酸素工業㈱
	與儀　盛輝	㈱オカノ
会計監事	福田愛二郎	貴船商事㈱
	上川路清一	岩谷瓦斯㈱

上原本部長挨拶

統計データ一覧

2006年～2010年　地区別酸素（一般）販売実績推移表 …… 60

2006年～2010年　地区別窒素（一般）販売実績推移表 …… 61

2006年～2010年　地区別アルゴン（一般）販売実績推移表 …… 62

業種別酸素（一般）販売実績推移表（5年間:2006～2010年度） …… 63

業種別窒素（一般）販売実績推移表（5年間:2006～2010年度）…… 64

業種別アルゴン（一般）販売実績推移表（5年間:2006～2010年度） …… 65

2010年4月～2011年3月　地区別酸素生産･販売実績表 …… 66

2010年4月～2011年3月　地区別窒素生産･販売実績表 …… 66

2010年4月～2011年3月　地区別アルゴン生産･販売実績表 …… 67

2010年4月～2011年3月　酸素生産量＆一般販売実績推移グラフ …… 67

2010年4月～2011年3月　窒素生産量＆一般販売実績推移グラフ …… 68

2010年4月～2011年3月　アルゴン生産量＆一般販売実績推移グラフ …… 68

2006年度～2010年度　溶解アセチレン生産･販売実績表 …… 69

2006年度～2010年度　液化炭酸ガス工場出荷･用途別販売実績推移表 …… 69

2006年～2010年　主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表 …… 70

2006年～2010年　標準ガス国内販売実績推移表 …… 71

2006年～2010年　圧縮水素出荷実績推移表 …… 71

2006年～2010年　地区別酸素（一般）販売実績推移表

単位：千m³

地区別	西暦（暦年）	液化酸素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合　計	対前年比
北海道	2006	13,056	91%	7,872	113%	5,278	101%	26,206	99%
	2007	13,763	105%	7,933	101%	5,119	97%	26,815	102%
	2008	14,470	105%	9,396	118%	5,104	100%	28,970	108%
	2009	16,286	113%	9,416	100%	4,555	89%	30,257	104%
	2010	14,470	89%	11,028	117%	4,520	99%	30,018	99%
東　北	2006	58,784	97%	72,187	104%	2,642	129%	133,613	101%
	2007	58,527	100%	71,992	100%	2,726	103%	133,245	100%
	2008	60,714	104%	70,654	98%	2,638	97%	134,006	101%
	2009	53,430	88%	56,924	81%	2,441	93%	112,795	84%
	2010	54,503	102%	90,331	159%	2,251	92%	147,085	130%
関　東	2006	254,150	99%	381,824	107%	12,953	114%	648,927	104%
	2007	256,299	101%	393,295	103%	13,713	106%	663,307	102%
	2008	249,468	97%	371,320	94%	12,697	93%	633,485	96%
	2009	217,448	87%	289,076	78%	10,981	86%	517,505	82%
	2010	236,465	109%	283,970	98%	10,529	96%	530,964	103%
東　海	2006	209,530	107%	226,774	103%	4,915	114%	441,219	105%
	2007	204,327	98%	220,350	97%	5,117	104%	429,794	97%
	2008	195,610	96%	195,861	89%	5,058	99%	396,529	92%
	2009	138,249	71%	134,793	69%	3,680	73%	276,722	70%
	2010	158,513	115%	182,949	136%	3,755	102%	345,217	125%
近　畿	2006	230,366	93%	180,059	97%	7,092	101%	417,517	94%
	2007	276,077	120%	193,964	108%	6,998	99%	477,039	114%
	2008	290,967	105%	189,246	98%	6,815	97%	487,028	102%
	2009	211,127	73%	119,877	63%	5,894	86%	336,898	69%
	2010	261,597	124%	143,115	119%	6,136	104%	410,848	122%
中　国	2006	88,898	103%	276,762	109%	4,206	105%	369,866	107%
	2007	93,973	106%	284,936	103%	4,341	103%	383,250	104%
	2008	96,254	102%	238,895	84%	4,282	99%	339,431	89%
	2009	84,573	88%	165,045	69%	3,442	80%	253,060	75%
	2010	87,434	103%	203,870	124%	3,249	94%	294,553	116%
四　国	2006	44,250	114%	132	100%	2,579	96%	46,961	113%
	2007	40,373	91%	125	95%	2,566	99%	43,064	92%
	2008	40,523	100%	65	52%	2,608	102%	43,196	100%
	2009	33,595	83%	121	186%	2,274	87%	35,990	83%
	2010	28,077	84%	803	664%	1,986	87%	100%	0%
九　州	2006	114,228	101%	27,323	125%	3,029	100%	144,580	105%
	2007	119,054	104%	83,882	307%	3,045	101%	205,981	142%
	2008	111,681	94%	133,662	159%	2,972	98%	248,315	121%
	2009	89,878	80%	120,036	90%	2,266	76%	212,180	85%
	2010	87,624	97%	109,043	91%	1,888	83%	198,555	94%
合　計	2006	1,013,262	100%	1,172,933	105%	42,694	108%	2,228,889	103%
	2007	1,062,393	105%	1,256,477	107%	43,625	102%	2,362,495	106%
	2008	1,059,687	100%	1,209,099	96%	42,174	97%	2,310,960	98%
	2009	844,586	80%	895,288	74%	35,533	84%	1,775,407	77%
	2010	928,683	110%	1,025,109	115%	34,314	97%	1,988,106	112%

2006年～2010年　地区別窒素（一般）販売実績推移表

単位：千m³

地区別	西暦（暦年）	液化窒素	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合　計	対前年比
北海道	2006	39,142	110%	23,164	92%	1,100	91%	63,406	103%
	2007	37,581	96%	26,178	113%	1,040	95%	64,799	102%
	2008	33,755	90%	26,005	99%	960	92%	60,720	94%
	2009	33,708	100%	24,415	94%	1,020	106%	59,143	97%
	2010	34,906	104%	25,941	106%	1,028	101%	61,875	105%
東　北	2006	224,975	115%	35,976	108%	1,368	117%	262,319	114%
	2007	225,124	100%	37,561	104%	1,406	103%	264,091	101%
	2008	216,655	96%	38,237	102%	1,423	101%	256,315	97%
	2009	173,485	81%	31,024	81%	1,206	85%	205,715	80%
	2010	185,974	107%	30,033	97%	1,286	107%	217,293	106%
関　東	2006	861,554	102%	805,989	107%	12,868	107%	1,680,411	104%
	2007	890,171	103%	877,244	109%	13,035	101%	1,780,450	106%
	2008	893,708	100%	914,818	104%	12,580	97%	1,821,106	102%
	2009	760,589	85%	911,235	100%	8,658	69%	1,680,482	92%
	2010	836,197	110%	954,586	105%	6,424	74%	1,797,207	107%
東　海	2006	490,669	112%	324,107	104%	2,995	106%	817,771	108%
	2007	521,484	106%	316,784	98%	3,302	110%	841,570	103%
	2008	478,273	92%	320,706	101%	3,213	97%	802,192	95%
	2009	434,241	91%	301,045	94%	1,905	59%	737,191	92%
	2010	518,452	119%	331,641	110%	1,886	99%	851,979	116%
近　畿	2006	457,716	114%	279,321	128%	3,810	96%	740,847	119%
	2007	498,498	109%	278,111	100%	3,803	100%	780,412	105%
	2008	508,549	102%	306,882	110%	3,604	95%	819,035	105%
	2009	438,013	86%	300,499	98%	2,767	77%	741,279	91%
	2010	457,554	104%	302,523	101%	3,078	111%	763,155	103%
中　国	2006	137,191	104%	536,025	108%	1,321	98%	674,537	107%
	2007	149,380	109%	565,223	105%	1,339	101%	715,942	106%
	2008	136,553	91%	582,156	103%	1,243	93%	719,952	101%
	2009	113,054	83%	540,846	93%	883	71%	654,783	91%
	2010	135,420	120%	543,989	101%	740	84%	680,149	104%
四　国	2006	44,565	108%	44076	103%	839	80%	89,480	105%
	2007	43,463	98%	56711	129%	823	98%	100,997	113%
	2008	41,459	95%	62747	111%	815	99%	105,021	104%
	2009	34,850	84%	40768	65%	673	83%	76,291	73%
	2010	34,640	99%	52,317	128%	638	95%	87,595	115%
九　州	2006	176,399	108%	20,623	110%	1,365	68%	198,387	108%
	2007	185,280	105%	47,018	228%	1,358	99%	233,656	118%
	2008	168,754	91%	123,539	263%	1,256	92%	293,549	126%
	2009	148,842	88%	116,711	94%	783	62%	266,336	91%
	2010	153,780	103%	117,884	101%	821	105%	272,485	102%
合　計	2006	2,432,211	108%	2,069,281	109%	25,666	100%	4,527,158	108%
	2007	2,550,981	105%	2,204,830	107%	26,106	102%	4,781,917	106%
	2008	2,477,706	97%	2,375,090	108%	25,094	96%	4,877,890	102%
	2009	2,136,782	86%	2,266,543	95%	17,895	71%	4,421,220	91%
	2010	2,356,923	110%	2,358,914	104%	15,901	89%	4,731,738	107%

2006年～2010年　地区別アルゴン（一般）販売実績推移表

単位：千m³

地区別	西暦（暦年）	液化アルゴン	対前年比	パイピング	対前年比	ボンベ詰	対前年比	合　計	対前年比
北海道	2006	2,525	124%	0	0%	667	100%	3,192	118%
	2007	2,427	96%	0	0%	816	122%	3,243	102%
	2008	2,426	100%	0	0%	698	86%	3,124	96%
	2009	1,664	69%	0	0%	535	77%	2,199	70%
	2010	2,640	159%	0	0%	589	110%	3,229	147%
東　北	2006	27,730	108%	0	0%	811	117%	28,541	108%
	2007	31,675	114%	0	0%	885	109%	32,560	114%
	2008	33,832	107%	0	0%	777	88%	34,609	106%
	2009	23,748	70%	0	0%	710	91%	24,458	71%
	2010	30,261	127%	0	0%	728	103%	30,989	127%
関　東	2006	56,970	105%	0	0%	4,001	101%	60,971	105%
	2007	61,253	108%	0	0%	4,061	101%	65,314	107%
	2008	59,692	97%	0	0%	3,863	95%	63,555	97%
	2009	44,363	74%	0	0%	2,695	70%	47,058	74%
	2010	53,358	120%	0	0%	2,537	94%	55,895	119%
東　海	2006	60,347	116%	0	0%	1,829	106%	62,176	115%
	2007	60,476	100%	0	0%	1,738	95%	62,214	100%
	2008	57,613	95%	0	0%	1,699	98%	59,312	95%
	2009	43,606	76%	0	0%	1,243	73%	44,849	76%
	2010	50,147	115%	0	0%	1,087	87%	51,234	114%
近　畿	2006	43,010	114%	0	0%	2,419	101%	45,429	113%
	2007	42,223	98%	0	0%	2,348	97%	44,571	98%
	2008	43,104	102%	0	0%	2,292	98%	45,396	102%
	2009	33,558	78%	0	0%	1,654	72%	35,212	78%
	2010	39,262	117%	0	0%	1,586	96%	40,848	116%
中　国	2006	12,254	113%	0	0%	1,521	106%	13,775	112%
	2007	13,711	112%	0	0%	1,549	102%	15,260	111%
	2008	12,961	95%	0	0%	1,524	98%	14,485	95%
	2009	10,772	83%	0	0%	983	65%	11,755	81%
	2010	12,692	118%	0	0%	763	78%	13,455	114%
四　国	2006	3,635	124%	0	0%	789	110%	4,424	121%
	2007	4,087	112%	0	0%	706	90%	4,793	108%
	2008	4,965	121%	0	0%	712	101%	5,677	118%
	2009	4,590	92%	0	0%	517	73%	5,107	90%
	2010	4,006	87%	0	0%	474	92%	4,480	88%
九　州	2006	21,374	105%	0	0%	1,437	102%	22,811	105%
	2007	21,663	101%	0	0%	1,429	99%	23,092	101%
	2008	22,878	106%	0	0%	1,402	98%	24,280	105%
	2009	17,687	77%	0	0%	893	64%	18,580	77%
	2010	21,071	119%	0	0%	744	83%	21,815	117%
合　計	2006	227,845	111%	0	0%	13,474	103%	241,319	110%
	2007	237,515	104%	0	0%	13,532	100%	251,047	104%
	2008	237,471	100%	0	0%	12,967	96%	250,438	100%
	2009	179,988	76%	0	0%	9,230	71%	189,218	76%
	2010	213,437	119%	0	0%	8,508	92%	221,945	117%

業種別酸素（一般）販売実績推移表
（5年間：2006～2010年度）

単位：千m³

業 種 別	西暦（年度）	液化酸素	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合　計	構成比
鉄　鋼　業（非鉄金属製造業を含む）	2006	175,827	17%	467,810	40%	2,731	7%	646,368	28%
	2007	188,932	17%	480,549	39%	3,022	8%	672,503	28%
	2008	169,796	17%	393,465	38%	2,673	8%	565,934	28%
	2009	150,043	17%	315,030	33%	2,170	7%	467,243	25%
	2010	175,251	19%	395,389	39%	1,774	6%	572,414	30%
輸送用機械器具製造業	2006	69,739	7%	0	0%	860	2%	70,599	3%
	2007	72,180	7%	0	0%	852	2%	73,032	3%
	2008	68,030	7%	0	0%	940	3%	68,970	3%
	2009	63,092	7%	0	0%	655	2%	63,747	3%
	2010	61,002	7%	0	0%	515	2%	61,517	3%
機械器具製造業（輸送用機械器具製造業を除く）	2006	88,650	8%	0	0%	874	2%	89,524	4%
	2007	88,066	8%	0	0%	891	2%	88,957	4%
	2008	82,880	8%	0	0%	864	2%	83,744	4%
	2009	78,412	9%	0	0%	633	2%	79,045	4%
	2010	81,693	9%	0	0%	560	2%	82,253	4%
金属製品製造業	2006	65,280	6%	20,347	2%	1,610	4%	87,237	4%
	2007	66,776	6%	19,153	2%	1,584	4%	87,513	4%
	2008	57,016	6%	31,263	3%	1,851	5%	90,130	4%
	2009	52,857	6%	25,626	3%	1,420	5%	79,903	4%
	2010	50,467	6%	26,714	3%	733	3%	77,914	4%
化学工業	2006	68,763	6%	570,050	48%	644	2%	639,457	28%
	2007	58,192	5%	644,725	52%	740	2%	703,657	30%
	2008	48,991	5%	550,826	54%	664	2%	600,481	29%
	2009	46,004	5%	537,680	57%	567	2%	584,251	32%
	2010	63,337	7%	504,108	50%	507	2%	567,952	29%
販売業者向け	2006	248,902	23%	3,492	0%	22,069	59%	274,463	12%
	2007	253,272	23%	3,297	0%	21,852	59%	278,421	12%
	2008	229,001	23%	3,283	0%	19,777	57%	252,061	12%
	2009	179,053	21%	2,858	0%	16,657	56%	198,568	11%
	2010	167,697	19%	906	0%	16,833	59%	185,436	10%
そ　の　他	2006	347,576	33%	118,009	10%	8,418	23%	474,003	21%
	2007	367,804	34%	90,435	7%	8,392	22%	466,631	20%
	2008	341,877	34%	45,651	4%	7,919	23%	395,447	19%
	2009	303,634	35%	61,855	7%	7,509	25%	372,998	20%
	2010	300,897	33%	84,334	8%	7,488	26%	392,719	20%
合　　計	2006	1,064,737	98%	1,179,708	101%	37,206	105%	2,281,651	102%
	2007	1,095,222	103%	1,238,159	105%	37,333	100%	2,370,714	104%
	2008	997,591	91%	1,024,488	83%	34,688	93%	2,056,767	87%
	2009	873,095	88%	943,049	92%	29,611	85%	1,845,755	90%
	2010	900,344	103%	1,011,451	107%	28,410	96%	1,940,205	105%

＊合計欄の構成比は対前年度比

業種別窒素（一般）販売実績推移表
（5年間：2006～2010年度）

単位：千m³

業　種　別	西暦（年度）	液化窒素	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合　計	構成比
鉄　鋼　業（非鉄金属製造業を含む）	2006	129,367	5%	196,229	9%	698	3%	326,294	7%
	2007	134,215	5%	201,072	9%	686	3%	335,973	7%
	2008	119,935	5%	189,373	8%	798	3%	310,106	7%
	2009	137,707	6%	185,571	8%	524	3%	323,802	7%
	2010	142,881	6%	207,040	9%	374	3%	350,295	8%
輸送用機械器具製造業	2006	145,131	6%	10,462	0%	708	3%	156,301	3%
	2007	175,022	7%	10,219	0%	720	3%	185,961	4%
	2008	163,506	7%	10,226	0%	925	4%	174,657	4%
	2009	149,131	7%	42,906	2%	549	3%	192,586	4%
	2010	149,945	6%	10,822	0%	403	3%	161,170	3%
電気機械器具製造業	2006	811,546	31%	422,645	20%	1,838	8%	1,236,029	26%
	2007	830,849	32%	439,598	20%	1,848	8%	1,272,295	26%
	2008	655,418	28%	423,765	19%	3,105	12%	1,082,288	24%
	2009	678,896	30%	386,247	17%	2,261	14%	1,067,404	24%
	2010	691,489	30%	439,748	19%	1,810	13%	1,133,047	24%
機械器具製造業（輸送用、電気機械器具製造業を除く）	2006	120,739	5%	895	0%	2,129	9%	123,763	3%
	2007	128,180	5%	856	0%	2,130	9%	131,166	3%
	2008	158,924	7%	857	0%	1,883	8%	161,664	4%
	2009	111,251	5%	812	0%	787	5%	112,850	3%
	2010	127,612	6%	843	0%	642	4%	129,097	3%
化学工業	2006	371,841	14%	1,164,380	55%	1,497	6%	1,537,718	33%
	2007	411,272	16%	1,286,295	58%	1,546	6%	1,699,113	35%
	2008	360,791	16%	1,354,138	61%	1,508	6%	1,716,437	37%
	2009	382,899	17%	1,367,532	61%	1,175	7%	1,751,606	39%
	2010	406,083	18%	1,426,364	61%	1,175	8%	1,833,622	39%
食品製造業	2006	141,437	5%	1,842	0%	676	3%	143,955	3%
	2007	144,051	6%	0	0%	522	2%	144,573	3%
	2008	133,590	6%	0	0%	602	2%	134,192	3%
	2009	135,501	6%	0	0%	286	2%	135,787	3%
	2010	144,304	6%	0	0%	216	2%	144,520	3%
販売業者向け	2006	318,196	12%	68,809	3%	12,645	53%	399,650	8%
	2007	328,398	13%	112,903	5%	12,850	52%	454,151	9%
	2008	296,640	13%	111,950	5%	12,304	49%	420,894	9%
	2009	287,941	13%	109,616	5%	8,320	50%	405,877	9%
	2010	238,494	10%	104,661	4%	7,362	51%	350,517	8%
そ　の　他	2006	538,567	21%	243,249	12%	3,810	16%	785,626	17%
	2007	453,270	17%	177,905	8%	4,232	17%	635,407	13%
	2008	436,835	19%	147,025	7%	3,830	15%	587,690	13%
	2009	366,259	16%	146,106	7%	2,641	16%	515,006	11%
	2010	413,348	18%	148,118	6%	2,344	16%	563,810	12%
合　　計	2006	2,576,824	107%	2,108,511	105%	24,001	99%	4,709,336	106%
	2007	2,605,257	101%	2,228,848	106%	24,534	102%	4,858,639	103%
	2008	2,325,639	89%	2,237,334	100%	24,955	102%	4,587,928	94%
	2009	2,249,585	97%	2,238,790	100%	16,543	66%	4,504,918	98%
	2010	2,314,156	103%	2,337,596	104%	14,326	87%	4,666,078	104%

*合計欄の構成比は対前年度比

業種別アルゴン（一般）販売実績推移表
（5年間：2006～2010年度）

単位：千m³

業　種　別	西暦（年度）	液アルゴン	構成比	パイピング	構成比	ボンベ詰	構成比	合　計	構成比
鉄　鋼　業（非鉄金属製造業を含む）	2006	55,747	24%	0	0%	1,440	13%	57,187	23%
	2007	56,183	23%	0	0%	1,640	14%	57,823	23%
	2008	50,392	24%	0	0%	1,429	13%	51,821	23%
	2009	53,022	27%	0	0%	1,198	16%	54,220	27%
	2010	56,429	27%	0	0%	1,140	16%	57,569	27%
輸送用機械器具製造業	2006	27,076	12%	0	0%	1,118	10%	28,194	12%
	2007	30,417	13%	0	0%	1,231	10%	31,648	13%
	2008	23,234	11%	0	0%	1,125	11%	24,359	11%
	2009	21,055	11%	0	0%	570	8%	21,625	11%
	2010	22,460	11%	0	0%	464	7%	22,924	11%
電気機械器具製造業	2006	45,856	20%	0	0%	584	5%	46,440	19%
	2007	50,305	21%	0	0%	548	5%	50,853	20%
	2008	41,428	20%	0	0%	472	4%	41,900	19%
	2009	40,424	21%	0	0%	363	5%	40,787	20%
	2010	44,427	22%	0	0%	389	5%	44,816	21%
機械器具製造業（輸送用、電気機械器具製造業を除く）	2006	11,717	5%	0	0%	849	7%	12,566	5%
	2007	12,630	5%	0	0%	831	7%	13,461	5%
	2008	13,451	6%	0	0%	788	7%	14,239	6%
	2009	10,087	5%	0	0%	518	7%	10,605	5%
	2010	10,775	5%	0	0%	492	7%	11,267	5%
金属製品製造業	2006	9,184	4%	0	0%	1,002	9%	10,186	4%
	2007	9,828	4%	0	0%	989	8%	10,817	4%
	2008	8,550	4%	0	0%	936	9%	9,486	4%
	2009	8,039	4%	0	0%	519	7%	8,558	4%
	2010	9,806	5%	0	0%	456	6%	10,262	5%
化学工業	2006	6,209	3%	0	0%	322	3%	6,531	3%
	2007	6,528	3%	0	0%	301	3%	6,829	3%
	2008	5,249	2%	0	0%	271	3%	5,520	2%
	2009	5,387	3%	0	0%	204	3%	5,591	3%
	2010	5,726	3%	0	0%	182	3%	5,908	3%
販売業者向け	2006	42,219	18%	0	0%	5,341	46%	47,560	19%
	2007	44,852	19%	0	0%	5,318	45%	50,170	20%
	2008	42,114	20%	0	0%	4,844	45%	46,958	21%
	2009	38,166	19%	0	0%	3,661	49%	41,827	20%
	2010	37,923	18%	0	0%	3,561	50%	41,484	19%
そ　の　他	2006	35,418	15%	0	0%	839	7%	36,257	15%
	2007	30,148	13%	0	0%	974	8%	31,122	12%
	2008	27,825	13%	0	0%	825	8%	28,650	13%
	2009	20,892	11%	0	0%	493	7%	21,385	10%
	2010	19,000	9%	0	0%	440	6%	19,440	9%
合　　計	2006	233,426	57%	0	0%	11,495	102%	244,921	106%
	2007	240,891	103%	0	0%	11,832	103%	252,723	103%
	2008	212,243	88%	0	0%	10,690	90%	222,933	88%
	2009	197,072	93%	0	0%	7,526	70%	204,598	92%
	2010	206,546	105%	0	0%	7,124	95%	213,670	104%

*合計欄の構成比は対前年度比

2010年4月～2011年3月　地区別酸素生産・販売実績表

単位：千m³

地区別		10/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11/1月	2月	3月
北海道	生産	1,803	1,551	1,730	1,748	1,393	1,762	1,624	1,623	1,571	1,651	1,568	1,498
	販売	2,652	2,505	2,627	2,519	2,221	2,550	2,516	2,629	2,522	2,491	2,418	2,493
東　北	生産	5,560	5,489	5,457	4,458	5,295	5,078	5,057	5,688	5,718	5,640	5,360	2,301
	販売	12,075	12,622	12,759	11,269	11,666	11,872	11,886	12,459	13,258	12,642	11,785	6,337
関　東	生産	38,580	37,281	33,540	40,690	41,315	42,931	42,982	41,506	41,477	43,753	39,054	30,298
	販売	45,353	40,557	41,878	44,553	43,360	45,076	47,187	46,257	44,926	46,471	42,359	32,540
東　海	生産	22,142	27,261	27,784	26,453	24,751	28,391	28,711	28,547	28,086	25,728	25,133	24,852
	販売	24,177	29,271	30,939	29,113	26,352	31,776	29,855	31,505	30,694	30,840	30,551	29,533
近　畿	生産	22,750	27,143	22,608	20,434	23,933	24,113	24,816	24,687	25,948	23,084	25,423	29,371
	販売	32,070	37,552	37,285	34,886	31,341	35,351	32,954	32,717	33,653	35,774	33,845	37,664
中　国	生産	19,734	18,922	16,831	17,412	16,240	15,204	17,207	18,622	19,286	18,724	19,089	20,152
	販売	26,623	25,464	26,039	24,109	22,450	21,401	21,706	23,739	25,146	23,792	23,066	25,956
四　国	生産	1,196	1,620	1,658	1,525	1,517	1,604	1,577	1,510	1,702	1,718	1,698	1,741
	販売	2,512	2,273	2,438	2,404	2,196	2,536	1,985	2,721	2,580	2,387	2,628	2,827
九　州	生産	10,186	15,922	15,987	15,405	16,807	16,019	15,444	15,331	17,557	17,062	12,977	17,371
	販売	11,051	17,083	17,289	16,629	17,818	16,860	16,581	17,040	19,151	18,610	14,537	19,601
合　計	生産	121,951	135,189	125,595	128,125	131,251	135,102	137,418	137,514	141,345	137,360	130,302	127,584
	販売	156,513	167,327	171,254	165,482	157,404	167,422	164,670	169,067	171,930	173,007	161,189	156,951

2010年4月～2011年3月　地区別窒素生産・販売実績表

単位：千m³

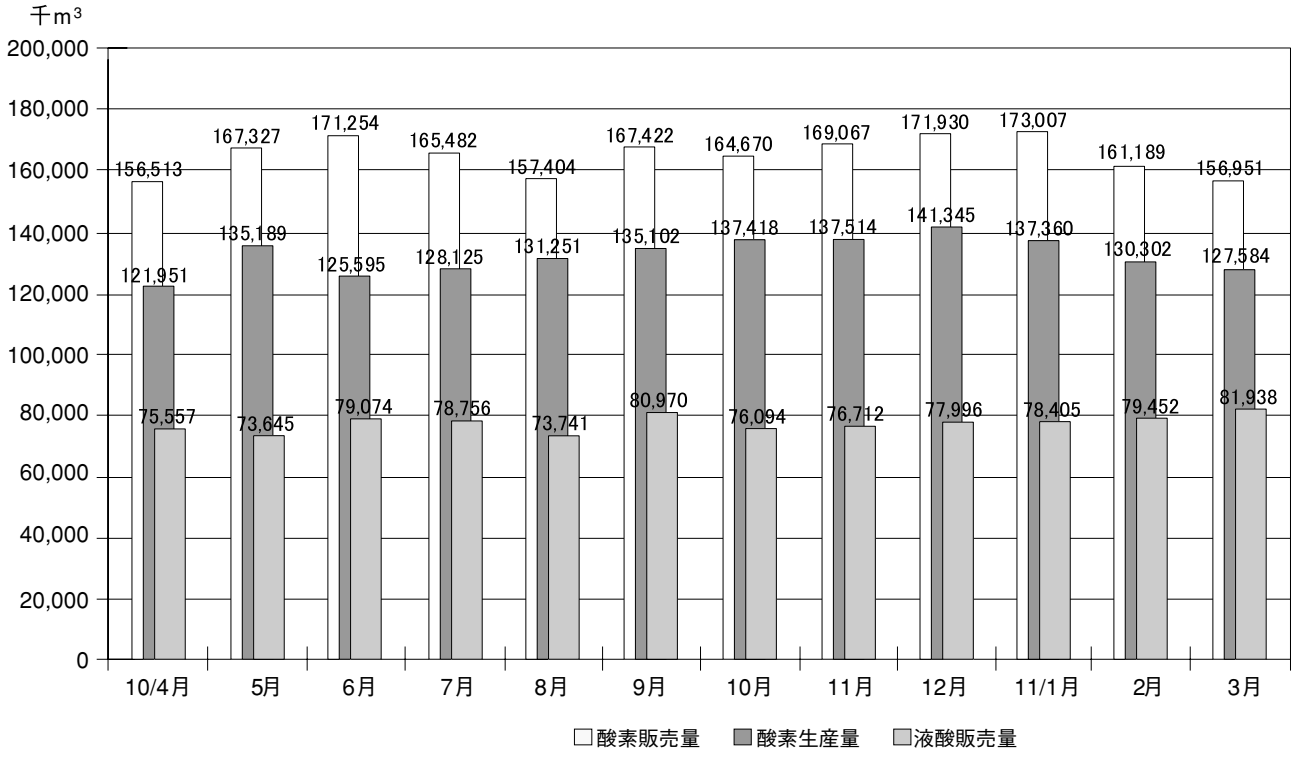
地区別		10/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11/1月	2月	3月
北海道	生産	3,261	3,353	3,330	4,264	5,068	4,714	3,302	3,067	3,371	3,427	2,995	3,183
	販売	4,290	4,724	4,864	5,852	7,523	7,175	4,870	4,409	4,960	4,946	4,175	4,560
東　北	生産	11,539	13,743	12,503	12,978	12,207	12,815	12,255	12,940	11,884	11,196	11,900	5,695
	販売	17,290	17,376	19,501	19,501	17,374	18,295	18,774	19,511	18,259	17,553	16,128	12,087
関　東	生産	136,487	135,179	144,316	143,733	139,134	143,282	143,142	145,052	137,553	137,143	134,779	131,694
	販売	147,533	141,399	152,846	154,568	148,354	154,407	151,654	151,162	148,163	148,069	143,689	143,821
東　海	生産	41,551	37,311	41,665	44,129	41,486	45,183	47,401	44,356	43,854	41,755	41,178	44,320
	販売	68,871	66,960	70,632	71,925	68,840	75,492	73,528	74,548	70,044	70,494	67,830	72,378
近　畿	生産	47,140	45,517	50,034	45,404	42,637	40,868	42,711	43,260	39,333	35,252	41,577	43,689
	販売	59,564	57,415	62,441	67,434	62,406	67,412	62,929	62,729	60,320	63,361	57,846	62,382
中　国	生産	30,080	31,453	29,681	29,560	28,208	30,570	31,568	30,838	30,470	30,963	30,249	33,862
	販売	56,975	55,498	55,449	55,726	53,989	58,090	58,039	54,507	54,284	54,105	53,011	56,356
四　国	生産	6,885	7,912	7,459	7,990	8,095	8,072	7,182	7,730	8,145	7,717	7,325	8,282
	販売	7,428	7,850	8,338	8,484	7,993	8,184	6,963	8,114	8,527	7,821	8,020	8,711
九　州	生産	20,903	22,724	21,128	20,884	21,735	21,564	21,179	20,545	21,009	21,353	20,813	23,478
	販売	23,423	22,920	21,852	22,753	22,971	22,399	22,442	23,041	22,890	22,816	22,134	24,710
合　計	生産	297,846	297,192	310,116	308,942	298,570	307,068	308,740	307,788	295,619	288,806	290,816	294,203
	販売	385,374	374,142	395,923	406,243	389,450	411,454	399,199	398,021	387,447	389,165	372,833	385,005

2010年4月～2011年3月　地区別アルゴン生産・販売実績表

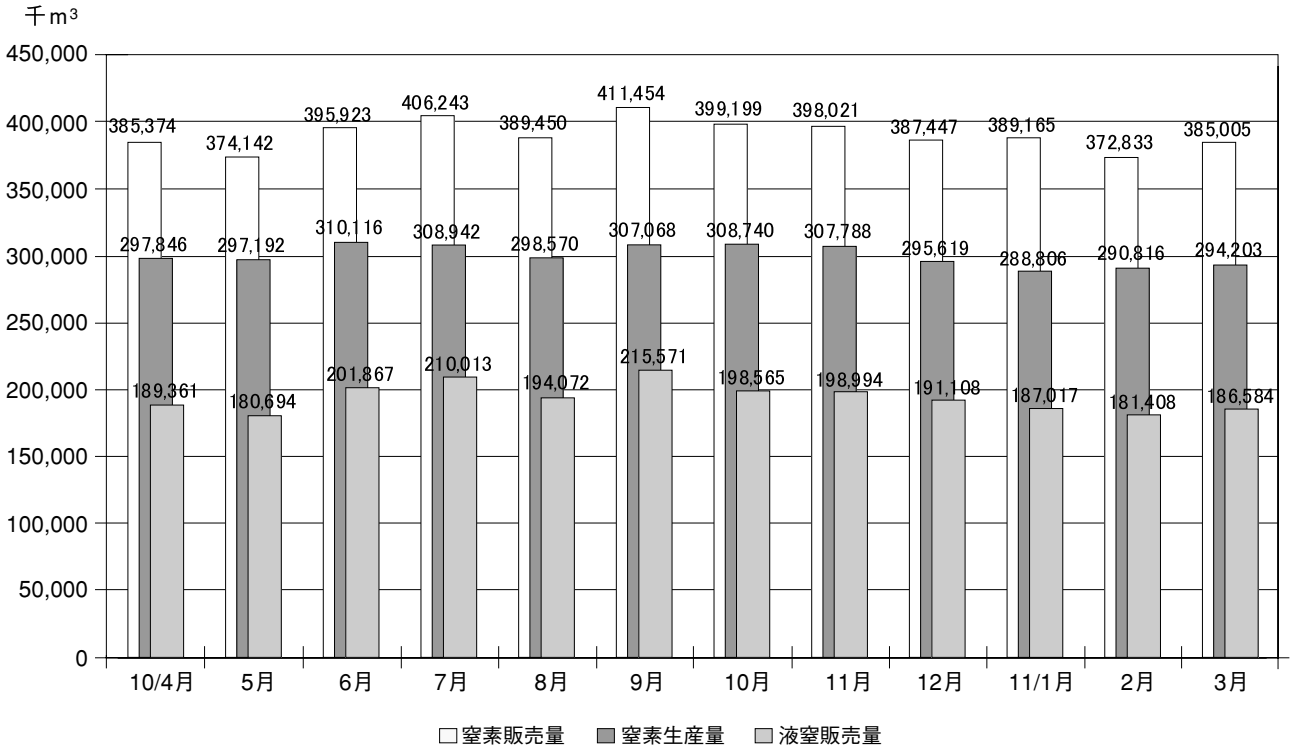
単位：千m³

地区別		10/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	11/1月	2月	3月
北海道	生産	286	318	253	313	283	289	298	279	313	287	261	297
	販売	264	273	262	301	275	289	267	291	294	269	254	282
東　北	生産	281	286	284	260	267	287	291	288	294	290	267	75
	販売	2,434	2,362	2,446	2,717	2,791	2,839	2,898	2,730	2,649	2,616	2,374	1,340
関　東	生産	5,454	5,050	5,339	5,203	5,617	5,618	5,711	5,679	5,597	5,723	5,337	3,983
	販売	4,784	4,323	4,763	4,908	4,423	4,938	4,787	4,649	4,576	4,434	4,636	3,823
東　海	生産	3,837	4,525	4,140	4,664	3,891	4,143	4,112	4,360	3,895	4,399	4,637	4,153
	販売	4,192	4,003	4,380	4,396	3,851	4,342	4,438	4,441	4,401	4,061	4,287	4,140
近　畿	生産	3,642	3,606	3,691	3,593	3,398	3,739	3,842	3,798	3,960	3,569	3,858	4,609
	販売	3,452	3,059	3,368	3,477	3,307	3,632	3,450	3,481	3,648	3,356	3,493	3,991
中　国	生産	2,455	2,042	2,581	2,594	2,392	2,287	2,579	2,343	2,609	2,623	2,340	2,579
	販売	1,137	1,076	1,107	1,198	1,141	1,157	1,115	1,112	1,170	1,101	1,102	1,129
四　国	生産	163	190	174	187	184	177	165	116	187	136	163	188
	販売	373	217	332	316	362	333	691	358	358	391	397	433
九　州	生産	1,211	1,334	1,588	1,292	1,189	1,492	1,668	1,318	1,410	1,238	1,357	1,583
	販売	2,033	1,789	2,004	1,903	1,867	1,812	1,736	1,671	1,769	1,832	2,070	2,404
合　計	生産	17,329	17,351	18,050	18,106	17,221	18,032	18,666	18,181	18,265	18,265	18,220	17,467
	販売	18,669	17,102	18,662	19,216	18,017	19,342	19,382	18,733	18,865	18,060	18,613	17,542

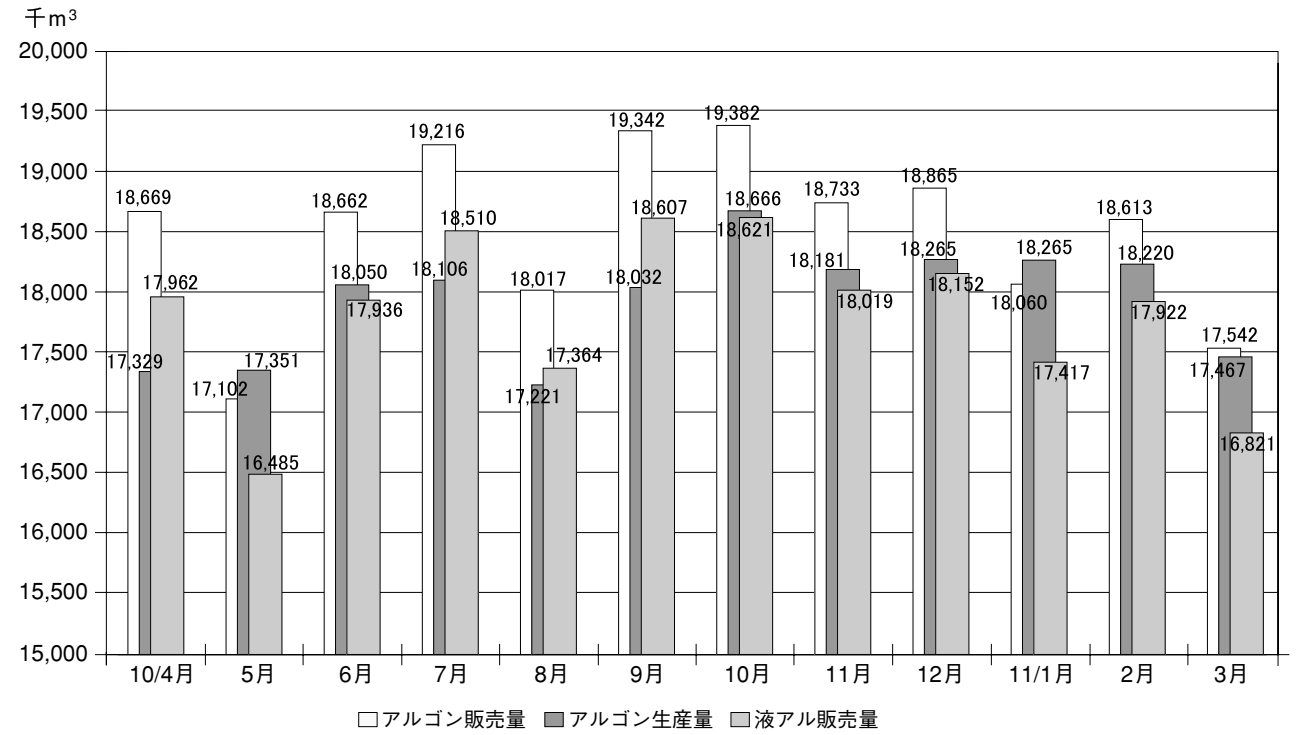
2010年4月～2011年3月　酸素生産量＆一般販売実績推移グラフ



2010年4月～2011年3月窒素生産量＆一般販売実績推移グラフ



2010年4月～2011年3月　アルゴン生産量＆一般販売実績推移グラフ



2006年度～2010年度　溶解アセチレン生産・販売実績表

単位：t

地区別		2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
北海道	生産	868	93.4%	856	98.6%	779	91.0%	688	88.3%	633	92.0%
	販売	901	96.8%	873	96.9%	787	90.1%	726	92.2%	592	81.5%
東北	生産	922	106.1%	851	92.3%	857	100.7%	721	84.1%	678	94.0%
	販売	524	100.8%	480	91.6%	423	88.1%	372	87.9%	367	98.7%
関東	生産	4,793	98.1%	4,583	95.6%	4,141	90.4%	3,396	82.0%	3,485	102.6%
	販売	5,823	98.8%	5,446	93.5%	5,008	92.0%	4,048	80.8%	4,086	100.9%
北陸	生産	1,029	96.0%	1,011	98.3%	724	71.6%	619	85.5%	619	100.0%
	販売	519	98.1%	508	97.9%	448	88.2%	394	87.9%	407	103.3%
東海	生産	2,251	98.0%	2,176	96.7%	1,934	88.9%	1,587	82.1%	1,544	97.3%
	販売	2,456	105.4%	2,375	96.7%	2,132	89.8%	1,729	81.1%	1,691	97.8%
近畿	生産	2,525	100.4%	2,493	98.7%	2,305	92.5%	1,877	81.4%	1,875	99.9%
	販売	3,247	97.1%	3,226	99.4%	2,901	89.9%	2,381	82.1%	2,371	99.6%
中国	生産	1,801	99.7%	1,802	100.1%	1,711	95.0%	1,502	87.8%	1,489	99.1%
	販売	1,903	102.0%	1,897	99.7%	1,735	91.5%	1,484	85.5%	1,493	100.6%
四国	生産	432	93.5%	382	88.4%	353	92.4%	279	79.0%	273	97.8%
	販売	907	96.8%	911	100.4%	833	91.4%	692	83.1%	664	96.0%
九州	生産	1,388	94.4%	1,390	100.1%	1,271	91.4%	1,147	90.2%	1,154	100.6%
	販売	1,838	94.8%	1,858	101.1%	1,744	93.9%	1,403	80.4%	1,405	100.1%
合計	生産	16,009	98.2%	15,544	97.1%	14,075	90.5%	11,816	84.0%	11,750	99.4%
	販売	18,118	99.1%	17,574	97.0%	16,011	91.1%	13,229	82.6%	13,076	98.8%

2006年度～2010年度　液化炭酸ガス工場出荷・用途別販売実績推移表

単位：t

年度	工場出荷量	前年比	用途別販売実績割合					
			溶接用	飲料用	冷却用	製鋼用	化学用	その他
2006年度	815,643	101%	50%	13%	17%	5%	7%	8%
2007年度	811,342	100%	49%	13%	16%	6%	7%	9%
2008年度	767,239	95%	52%	14%	16%	5%	6%	7%
2009年度	688,133	90%	50%	15%	13%	6%	9%	8%
2010年度	700,239	102%	51%	14%	12%	6%	10%	6%

2006年～2010年　主要半導体材料ガス等国内市場実績推移表

単位：kg

番号	ガス名称	化学記号	2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
			需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比	需要量	前年比
1	アルシン	AsH3	20,300	90%	20,200	100%	21,400	106%	15,600	73%	20,600	132%
2	ジボラン	B2H6	630	103%	630	100%	590	94%	430	73%	480	112%
3	三塩化ホウ素	BCl3	92,000	100%	92,000	100%	98,000	107%	101,100	103%	123,600	122%
		*1	35,000	100%								
4	四フッ化炭素	CF4	477,000	111%	494,000	104%	489,000	99%	357,500	73%	475,900	133%
5	三フッ化メタン	CHF3	67,600	131%	73,800	109%	85,200	115%	73,400	86%	86,100	117%
6	六フッ化エタン	C2F6	453,000	89%	390,000	86%	343,300	88%	206,500	60%	247,900	120%
8	八フッ化シクロブタン	C4F8	25,000	109%	27,000	108%	29,000	107%	40,700	140%	43,700	107%
9	塩素	Cl2	165,000	157%	185,000	112%	203,000	110%	172,900	85%	247,300	143%
10	ゲルマン	GeH4	100	100%	110	110%	120	109%	110	92%	110	100%
11	臭化水素	HBr	61,000	122%	72,200	118%	83,000	115%	74,900	90%	94,300	126%
12	塩化水素	HCl　*2	240,000	109%								
13	アンモニア	NH3	1,033,000	118%	1,132,000	110%	1,168,000	103%	979,400	84%	1,589,600	162%
14	三フッ化窒素	NF3	885,000	140%	1,168,000	132%	1,423,000	122%	1,232,600	87%	1,658,200	135%
15	一酸化二窒素	N2O	545,000	145%	610,000	112%	580,000	95%	490,700	85%	603,400	123%
16	ホスフィン	PH3	18,100	112%	18,400	102%	17,700	96%	11,700	66%	15,800	135%
17	モノシラン	SiH4	319,000	110%	349,000	109%	407,000	117%	430,300	106%	547,500	127%
18	ジシラン	Si2H6	500	100%	500	100%	500	100%	550	110%	580	105%
19	ジクロロシラン	SiH2Cl2	125,500	105%	144,000	115%	155,000	108%	130,000	84%	160,000	123%
20	四フッ化ケイ素	SiF4	6,000	100%	6,000	100%	6,000	100%	6,000	100%	5,700	95%
21	ＴＥＯＳ	(C2H5O)4Si	205,000	144%	342,000	167%	378,000	111%	390,600	103%	424,500	109%
22	六フッ化硫黄	SF6	192,000	120%	197,000	103%	207,000	105%	186,300	90%	267,400	144%
23	六フッ化タングステン	WF6	68,000	124%	78,000	115%	86,000	110%	90,000	105%	108,000	120%
24	有機金属		1,500	100%	1,500	100%	1,750	117%	1,610	92%	2,470	153%
25	その他	H2Se BF3 SiHCl3等										
年間需要金額（単位：億円）			476	110%	515	108%	552	117%	497	90%	603	121%

（注）　*1：PBN用　2007年より統計対象外　　*2：HCl　2007年より統計対象外

2006年～2010年　標準ガス国内販売実績推移表

単位：本

品　　目	2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
	本数	前年比	本数	前年比	本数	前年比	本数	前年比	本数	前年比
一酸化炭素（CO） 標準ガス	16,200	107%	15,800	98%	14,000	89%	12,500	89%	12,800	102%
二酸化炭素（CO_2）標準 ガス	10,900	96%	10,900	100%	10,400	95%	9,200	88%	11,000	120%
二酸化硫黄（SO_2）標準 ガス	6,800	101%	6,900	101%	7,000	101%	7,000	100%	6,700	96%
一酸化窒素（NO）標準 ガス	17,500	107%	18,100	103%	18,400	102%	18,000	98%	17,600	98%
酸素（O_2）　　標準ガス	15,200	99%	15,800	104%	15,900	101%	14,900	94%	14,900	100%
炭化水素（HC） 標準 ガス	11,700	106%	12,100	103%	11,600	96%	10,800	93%	11,700	108%
その他　　準標 ガス	56,500	110%	55,100	98%	52,800	96%	44,000	83%	49,400	112%
標準ガス合計	134,800	106%	134,700	100%	130,100	97%	116,400	89%	124,100	107%
ゼロガス	5,500	95%	5,800	105%	6,200	107%	5,800	94%	6,000	103%
標準ガス、ゼロガス合計	140,300	106%	140,500	100%	136,300	97%	122,200	90%	130,100	106%
金額	36億円	106%	36億円	100%	35億円	97%	32億円	90%	34億円	106%

2006年～2010年　圧縮水素出荷実績推移表

単位：千m^3

分　　野	2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
	数　量	前年比	数　量	前年比	数　量	前年比	数　量	前年比	数　量	前年比
弱　　電	51,098	110.3%	54,359	106.4%	52,204	96.0%	41,699	79.9%	50,207	120.4%
化　　学	27,354	95.4%	22,732	83.1%	21,758	95.7%	16,483	75.8%	18,399	111.6%
金　　属	43,531	133.0%	41,232	94.7%	38,941	94.4%	24,110	61.9%	27,003	112.0%
硝　　子	18,540	113.1%	16,025	86.4%	14,225	88.8%	13,347	93.8%	15,898	119.1%
そ の 他	15,633	69.3%	15,036	96.2%	15,155	100.8%	14,978	98.8%	19,363	129.3%
合　　計	156,156	106.5%	149,384	95.7%	142,283	95.2%	110,617	77.7%	130,869	118.3%

編集後記

○前回の産業ガスレポート発刊は本年3月末でしたが、その後約６カ月の動きはまさに激動の一言でした。未曽有の東日本大震災更に原発問題があり、我々一人一人今まで経験したことがない状況に置かれています。被災された方におかれては、今も日々困難で厳しい環境に立ち向かわれておられます。我々全員が、今後も長期的に種々の問題を克服して行かねばなりません。

当協会においても定常的な業務に加え、この６カ月間電力、燃料確保、輸送路確保、容器回収、再生可能エネルギー買取制度、放射性物質関連、また医療ガス分野では酸素の緊急支援等々、数多くの問題への対応や取組みをしてまいりました。この間、被災被害者を含め会員会社におかれては物心両面で当協会をご援助頂き、またお力を貸して頂きましたことに対し、この場を借りて改めて深くお礼申し上げます。当協会職員も全力で取組んでまいりましたが、なんとかやり遂げることができましたのは皆様方及び関係者各位のご協力、ご支援の賜物であります。

○これら課題、問題の取組み作業を通し、当協会産業ガス部門として、使用電力量の調整、再生可能エネルギー買取制度への提言、放射性物質の付着したエア・フィルター交換、不明容器回収等について、当協会が業界の声をまとめ上げコンセンサス形成にお役に立てたことは、協会の趣旨に沿い会員の皆様方に少しは貢献できたと思っております。

これらの課題、問題については、関係官庁、各位から当協会に取りまとめの要請や依頼を受けたものもあり、それらへの取組みや成果を広報・発信に努め、業界の地位の向上や、産業ガス・医療ガスの社会、産業のインフラとしての重要性をPRすることに努めてまいりました。

○今回、㈱リキッドガスの中井社長（当協会広報委員長）にエッセイをお願いしたところ、ご多忙中ながら快くお引き受け頂きありがとうございます。中井社長には日頃から副会長、広報委員長として当協会の活動をご支援い頂いておりますが、今回の「一年だけの熱い夢」を大変興味深く読ませて頂きました。というのもK.Tも大変野球が好きで野球に関する小説、エッセイ、映画をたくさん読んだり見ていますが、中井社長のエッセイにも野球部、野球部員に対する愛情があふれており、大変楽しく読ませて頂きました。

○後記を書いておりますK.Tは、全く個人的な話で恐縮ですが、9.11当時某社のニューヨーク駐在をしており、現場をオフィスから肉眼で見える場所に勤務しておりました。３マイル（５キロメートル）の距離にあり、衝撃的な出来事にこの時も遭遇しました。あれから今年でちょうど10年です。アメリカもその後国民が一致団結しなんとか危機を乗り越えました。日本も同様にこの難局を乗り越えることが出来ると確信しておりますが、当協会もその一翼を少しでも担いたいと職員一同業務に取組んでおります。

（K.T記）

会誌「産業ガスレポート」　Vol.25（2011年秋号）

2011年9月発行
発行所　一般社団法人 日本産業・医療ガス協会　〒108-0014 東京都港区芝5丁目30番9号　藤ビル 6階
編集発行人　豊澤　幸平　TEL：03-5427-6020 FAX：03-5427-0020 URL：http://www.jimga.or.jp